

平成28年度

事業報告書



社会福祉法人 敬和会

高齢者生活支援施設 けいわ荘
特別養護老人ホーム ユニテ けいわ
居宅介護支援センター けいわ荘
厚木市荻野地域包括支援センター
え ま ー ぶ る
ケアプランセンター けいわ
ケアハウス えがりて

目 次

事業総括	1
主な実績	1
部門総括	2
【部門別事業報告】	5
1. 生活支援課	5
《高齢者生活支援施設けいわ荘・特別養護老人ホームユニテけいわ》	
① 入所者諸状況	5
1) 男女別入所者年齢構成	5
2) 平均在所期間	6
3) 平均年齢、最高・最低年齢	6
4) 介護保険 要介護度別人数	7
5) 年間施設稼働実績表（稼働率）	8
6) 年間施設稼働実績表（実数）	9
7) クラブ活動実績表	10
8) 行事報告	10
9) 諸会議	13
② 地域交流実績	13
1) 教員志望介護実習生の受入れ	13
2) 介護実習生の受入れ	13
3) 看護専門学校実習生の受入れ	13
4) 慰問	13
5) 介護体験・インターンシップ	13
6) 養護学校現場実習生受入れ	13
③ ボランティア実績表	14
1) 団体	14
2) 個人	14
【施設ケアマネージャー】	15
プラン実績表	
【栄 養】	15
入所者の主食形態・副食形態表	
2. 地域支援課	16
1) 居宅介護支援センターけいわ荘	16
Ⅰ) 居宅介護支援	16
Ⅱ) 通所介護	17
Ⅲ) 訪問介護（障害福祉含む）	18
Ⅳ) 短期入所生活	19
2) 地域包括支援センター	21
3) 配食サービス	24
4) えまーぶる	27
Ⅰ) 通所介護事業所	27
Ⅱ) 居宅介護事業所	28
5) ケアプランセンターけいわ	29
3. 管 財 課	30
4. 総 務 課	32
5. ケアハウス「えがりて」	34
【研修会報告】	36
① 外部研修	36
② 施設内研修	39
③ 管理職研修	39
【× モ】	40

平成 28 年度 社会福祉法人 敬和会 事業報告

事業総括

社会福祉法人敬和会では、経営の自律性の強化と安定性の確保等を調和させた「法人経営」という考え方を持ち、基本理念の一つである「安らかなる老人の生き甲斐を守り育む」精神を日々の支えとする中で、「地域と共に育つ施設づくり」を実践してまいりました。

また、法令遵守をはじめ幾つかの行動指針を掲げる中、理事・評議員・監事の皆様の適切なご指導を仰ぎ、ご利用者様やご家族様に信頼される福祉サービスの提供を行うため、きめ細やかな事業を展開してまいりました。

本年度の特徴として、

- ① 平成 28 年度、整備した遊歩道およびパーゴラは、ご利用者、ご家族、職員の癒しの場として親しまれ、好評を受けております。
- ② 平成 28 年度より給食業務の直営化を開始し、健康的な食生活を提供することが出来、ご利用者のニーズに応えるよう、四季折々のメニューを提供しました。

主な実績

① 管理職養成の研修会活性化

職員の意欲を引き出す処遇と育成を発展的に継続し、成長を促せるよう、管理職員のマネジメント力を高め、一般職員の資質やモチベーションの向上を目的とする人事考課制度の検討、障がい者支援事業への模索などの研修会を実施し、事業化に向けて検討を重ねています。

- ② 介護業務記録システム「Notener（ノートナー）」の運用のための取り組み
今年度の重点取り組み事項の一つに「業務の合理化と科学化の取り組み」を掲げました。

その具体的取り組みとして、「Notener」の研修を実施し、次年度の準備として体制作りを構築しました。

③ 施設内研修会の充実と外部研修会の奨励

自律性を高め、職員一人ひとりのスキル・能力を高めていくために、積極的に受講させた。

④ 障害者雇用への試み

障害のある人が障害者のない人と同様、その能力と適性に応じた雇用の場に就き、地域で自立した生活を送ることができるような共生社会の実現を目指し、今回初めての試みとして伊勢原養護学校の生徒 1 名を現場実習として受け入れました。

その実習内容は「清掃業務」および「厨房業務」を行い、本人はもとより学校の教員並びにご家族から感謝を頂くことができました。

その結果、平成 29 年度パート職員ではありますが、厨房業務として採用に繋げることができました。

⑤ 施設環境の整備

遊歩道・パーゴラの整備および給水設備（受水槽）を改修し、ご利用者の皆様が日々「安心して過ごせる生活保障」を実現しました。

⑥ 給食の直営化

平成 28 年度より、ご利用者のご要望に応えられるよう、給食を直営化にいたしました。

食を通しての健康づくりをめざして、管理栄養士をはじめ、スタッフがアイデアを駆使した食事の提供を実施しました。

⑦ 特定事業所加算Ⅲの取得

居宅介護支援では、平成 29 年 1 月に主任ケアマネ資格を取得し、2 月より特定事業所加算Ⅲを取得することができました。

⑧ 特定事業所加算Ⅱの取得

ケアプランセンターけいわでは、ケアマネージャー増員により平成 28 年 10 月より特定事業所加算Ⅱを取得することができました。

⑨ 地域包括ケアシステムの推進

鳶尾団地内でタウンミーティングを 3 回実施し、地域のニーズと人的資源について協議をすることができました。

部門総括

重点取組事項	1. 生活支援課	2. 地域支援課
利用者サービスの充実	○ ご家族様との交流を大切に、面会時には積極的にコミュニケーションを図った。 ○ ご利用者様主体のケアの実践に取り組めた。 ○ 住み心地良い環境づくりに取り組めた。 ○ 看取りに関して、理解度にばらつきがあり、職員全員の共通認識の差を埋める努力が必要である。 ○ 関係部署との情報交換を行うことで、多様なニーズの利用者を受け入れることができた。 ○ 身寄りのいない利用者が増え、入所後に成年後見人の申請をする方のサポートを行った。 ○ ケアプランを通し、意欲的に生活が送れ	○ 他事業所との情報共有や目標達成状況等を正確に把握し、協働することができた。 ○ アクティビティを通して利用者の笑顔を引き出すことができた。 ○ 毎朝のミーティングで情報共有と意見交換を行うことができた。 ○ 利用者の身体・生活状態を感知し、関係機関と密に情報交換を行い、身体や生活環境が低下しないように努めた。 ○ 利用者個人が食事しやすいよう細かい部分まで食形態の対応をしたが、まだ不十分である。 ○ 関係機関との連携により、地域の社会資源を含めた情報共有を行った。

	るよう支援の実践に努めた。	
職員及び指導層の充実と育成	○ 他部署との情報交換や共有を図り、スキルアップができた。 ○ 委員会、行事等で各職員が主体的にリーダーシップを図れるための環境づくりと意見交換が行えるよう努力した。 ○ 事故防止への取り組みについて、報告書を記載するに留まらず、考えるための助言を施した。 ○ 新入職員には情報や経験を伝え、サポートするように努めた。 ○ 外部研修について、例年より多くの職員を参加させることができた。 ○ 介護支援専門員更新研修参加者の研修内容の発表や提案をもとに、業務のあり方を意見交換するなどスキル向上に努めた。	○ 施設内外研修に参加することにより、個々のスキルを上げることができた。 ○ 法人全体の経営を常に意識した行動をし、法改正や制度改正にも敏感に事業展開を考え、行動してきた。 ○ 利用者の気持ちに寄り添い、親切・丁寧な援助を行い、「いつも気持ちよく生活できてうれしい」の言葉があり、信頼されることができた。 ○ 衛生管理、吐物処理等実践を交えて研修することができた。
業務の合理化と科学化の取り組み	○ 介護記録等 ICT 導入が円滑に進むよう、職員全員が前向きな姿勢で取り組める環境づくりや研修等に参加することで、業務の改善に向けた取り組みを行うことができた。 ○ 業務の分担や段取りを行うことで、迅速に業務を遂行した。 ○ 報告・連絡・相談のツールについて、何通りか用意していきたい。 ○ 業務の見直しについては、その都度行うことができたが、マニュアルの作成には至らなかった。 ○ 各担当学会議を定期的開催し、生活支援についての意見交換を行い、安心できる環境づくりに努めた。 ○ ユニテでは、年 4 回の地域推進会議を開催し、地域から支持される施設づくりに努めた。 ○ 来年度よりの記録システムの ICT 化に伴い、支援記録においても円滑に管理できるよう取り組んでいきたい。	○ ほのぼの NEXT 上の情報管理を細かくすることで、業務の合理化が図られた。 ○ ICT の外部研修に参加し、情報の電子化に関する知識を習得した。 ○ 効率の良い事務作業を行うことができた。 ○ 利用者の身体・生活状況の変化時には、関係部署との報告・連絡・相談を速やかに取ることができた。また、電子化を利用し、施設内の情報を共有することができた。 ○ 栄養士が多くの研修、研究会、勉強会に参加し、知識の吸収に努めた。 ○ ほのぼの NEXT を活用し、紙ベースを減らすことができた。 ○ タウンミーティングを開催し、地域福祉の基本と地域アセスメントに着手した。

重点取組事項	3. 管財課（※詳細は後述）
ライフライン安定供給の構築	○ 9 月より給水管布設および受水槽工事を着工→12 月上旬完了。 ○ エコキュート導入により、45%灯油の削減が実現した。 ○ 施設侵入防止のセンサーライトの設置を行った。
地震防災の強化と防火対策	○ 各部署単位の防災マニュアルをフローチャート方式で作成した。 ○ 職員に対する安否確認メールの登録および返信方法の確認を行った。
交通事故防止活動の実施	○ 各季節の交通安全週間に合わせて、『けいわ荘安全運転 10 ヶ条』を標示し、交通規則を遵守するよう教育した。 ○ 人身事故は皆無でした。

主な平成 28 年度施設補修・改修関係内訳書

番号	補修・改修項目	場所	番号	補修・改修項目	場所
1	新設受水槽基礎工事	施設	8	給水施設改修電気工事	施設
2	プロジェクター交換	通所介護	9	給水引込、受水槽工事	施設
3	エアコン修理	通所介護	10	受水槽目隠しフェンス工事	施設
4	新設受水槽フェンス	施設	11	機械室換気装置修理	新館地下
5	温蔵庫交換	厨房	12	浄化槽水中ポンプ 2 台交換	新館
6	3 モーターベッド購入	一般棟	13	エレベーターパナソニック修理	ユニテ
7	機械浴槽修理	全般	14	全自動軟水器増設	厨房

重点取組事項	4. 総務課（※詳細は後述）
利用者サービスの充実	○ 介護職員がクオリティの高いサービスの提供が行えるよう、その裏方として、事務職員一丸となって協力した。
職員及び指導層の充実と育成	○ 年 3 回の施設内研修及び外部研修会への参加奨励により、多くの収穫を得ることができ、職員のスキルアップに繋がった。
業務の合理化と科学化の取り組み	○ 膨大な事務書類のデジタル化を構築する準備と仕組み・方法を検討し、次年度以降試行していく。
経営力アップと新規事業への取り組み	○ 障がい者就労支援の一環として、養護学校生 1 名を受け入れ、現場実習を実施。調理補助員として採用するに至った。次年度以降も養護学校生の現場実習を積極的に受け入れていく予定である。

重点取組事項	5. ケアハウスえがりて
利用者サービスの充実	○ 自分らしく生き生きとした日々を過ごしていただくため、個々のニーズに合わせたサービスの提供を行うことができた。
職員及び指導層の充実と育成	○ 各種委員会に参加し、他部署との情報の共有化に努めた。
業務の合理化と科学化の取り組み	○ ほのぼの NEXT を活用し、業務の効率化が図られた。また、次年度の向けて、情報の電子化を進めていく予定である。

【部門別事業報告】

1. 生活支援課

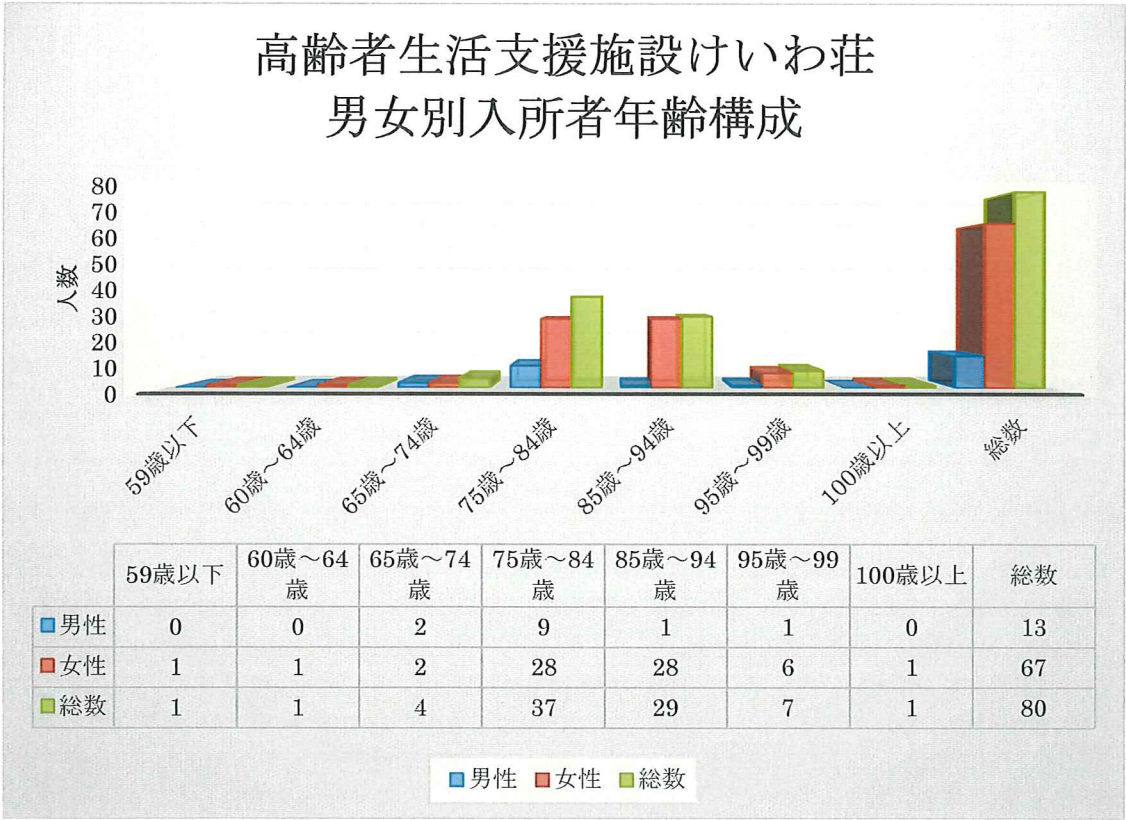
総 括

接遇マナーの向上を目指す中で、利用者やその家族と、より良好な関係を築き、十分な意思の疎通を図ることで、利用者が満足できる良質なサービスの提供を心掛けてまいりました。また、施設での生活が安全で快適なものとなるよう危険箇所の把握等の分析はもとより、危機管理体制の強化に向け職員間で情報の共有を蜜に行い、事故の未然防止に努めてまいりました。併せて、利用者のニーズを的確に把握し、状態に応じた適切な介護サービスが適時に提供できるよう個別ケアの推進に力を傾注してまいりました。

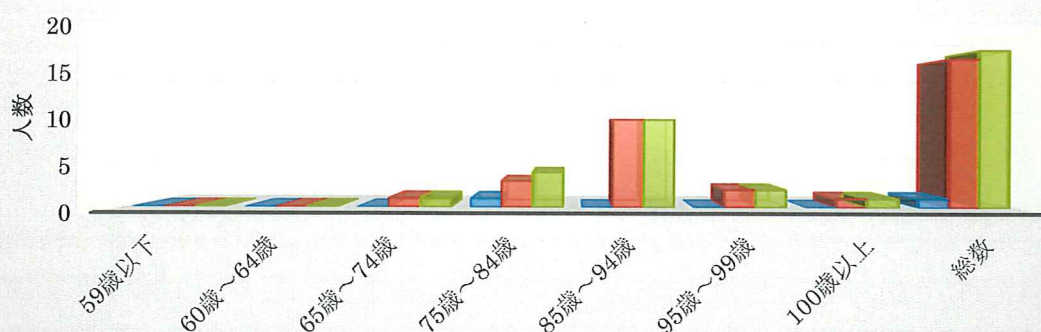
さらに、実習生やボランティアを積極的に受け入れ、人材の確保及び育成に繋げてまいりました。

① 入所者諸状況（平成 29 年 3 月 31 日時点）

1) 男女別入所者年齢構成



特別養護老人ホームユニテけいわ 男女別入所者年齢構成



	59歳以下	60歳～64歳	65歳～74歳	75歳～84歳	85歳～94歳	95歳～99歳	100歳以上	総数
■男性	0	0	0	1	0	0	0	1
■女性	0	0	1	3	10	2	1	17
■総数	0	0	1	4	10	2	1	18

■男性 ■女性 ■総数

2) 平均在所期間

3) 平均年齢、最高・最低年齢

〔高齢者生活支援施設 けいわ荘〕

	平均在所期間
男性	2年3ヵ月
女性	3年0ヵ月
平均	2年7ヵ月

	入所者数	平均年齢	最高年齢	最低年齢
男性	13名	81.6歳	98歳	69歳
女性	67名	85.1歳	100歳	50歳
計	80名	83.4歳		

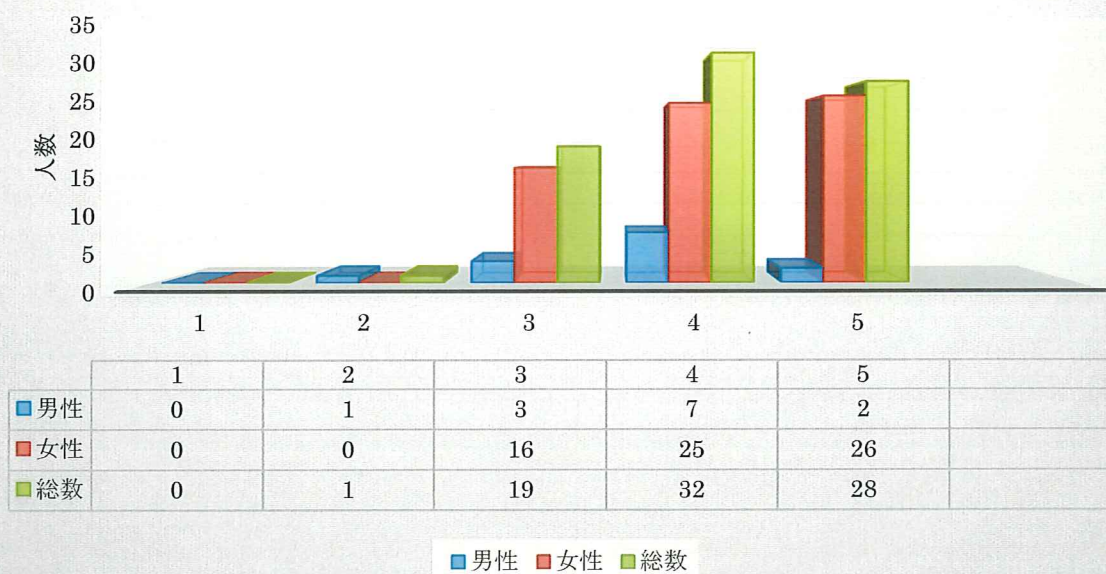
〔特別養護老人ホーム ユニテ けいわ〕

	平均所在期間
男性	2年11ヵ月
女性	1年9ヵ月
平均	2年4ヵ月

	入所者数	平均年齢	最高年齢	最低年齢
男性	1名	80.4歳	80歳	80歳
女性	17名	89.5歳	101歳	69歳
計	18名	85.0歳		

4) 介護保険 要介護度別人数

高齢者生活支援施設けいわ荘 要介護度別人数



特別養護老人ホームユニテけいわ 要介護度別人数



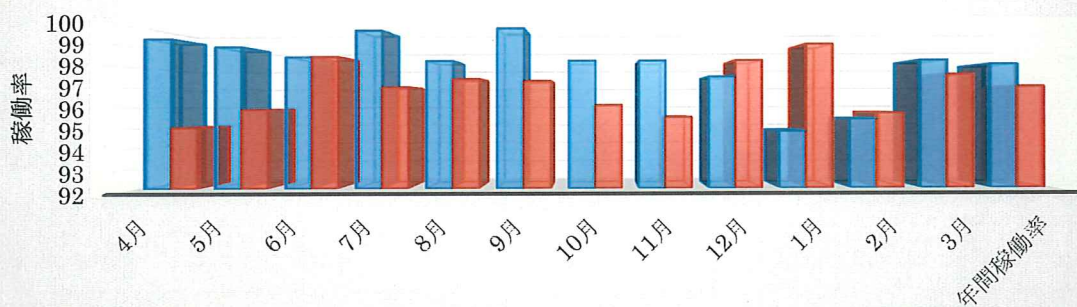
5) 年間施設稼働実績表（稼働率）

〔高齢者生活支援施設 けいわ荘〕 定員 82 名

平成 28 年度稼働率 97.0%

平成 27 年度稼働率 98.1%

高齢者生活支援施設けいわ荘稼働率



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間稼働率
平成27年度	99.4	99	98.5	99.8	98.3	99.9	98.3	98.3	97.5	94.8	95.4	98.3	98.1
平成28年度	95	95.9	98.5	97	97.4	97.3	96.1	95.5	98.3	99.1	95.7	97.6	97

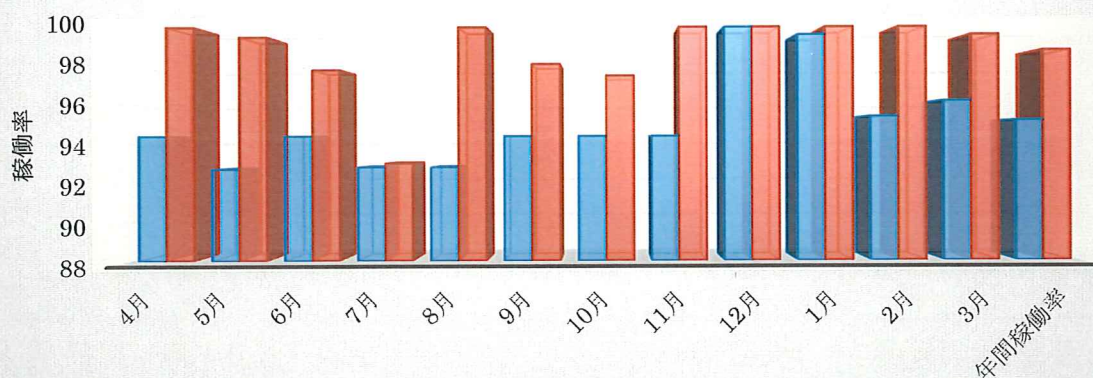
■ 平成27年度 ■ 平成28年度

〔特別養護老人ホーム ユニテ けいわ〕 定員 18 名

平成 28 年度稼働率 98.8%

平成 27 年度稼働率 95.2%

特別養護老人ホームユニテけいわ稼働率

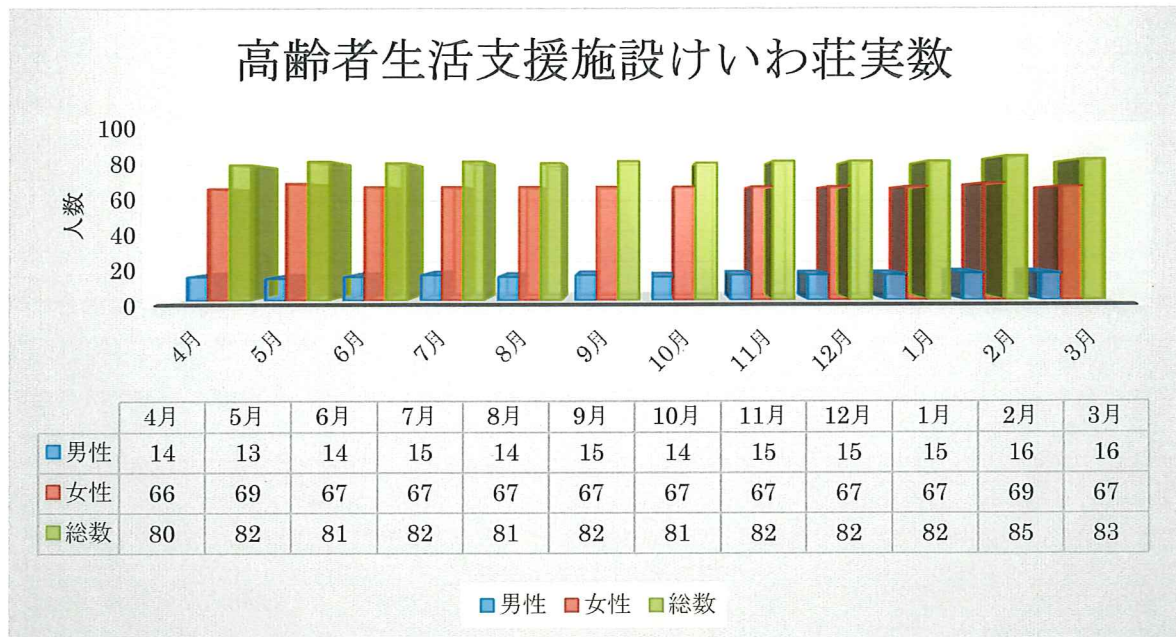


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間稼働率
平成27年度	94.4	92.7	94.4	92.8	92.8	94.4	94.4	94.4	100	99.6	95.4	96.2	95.2
平成28年度	100	99.5	97.8	93	100	98.1	97.5	100	100	100	100	99.6	98.8

■ 平成27年度 ■ 平成28年度

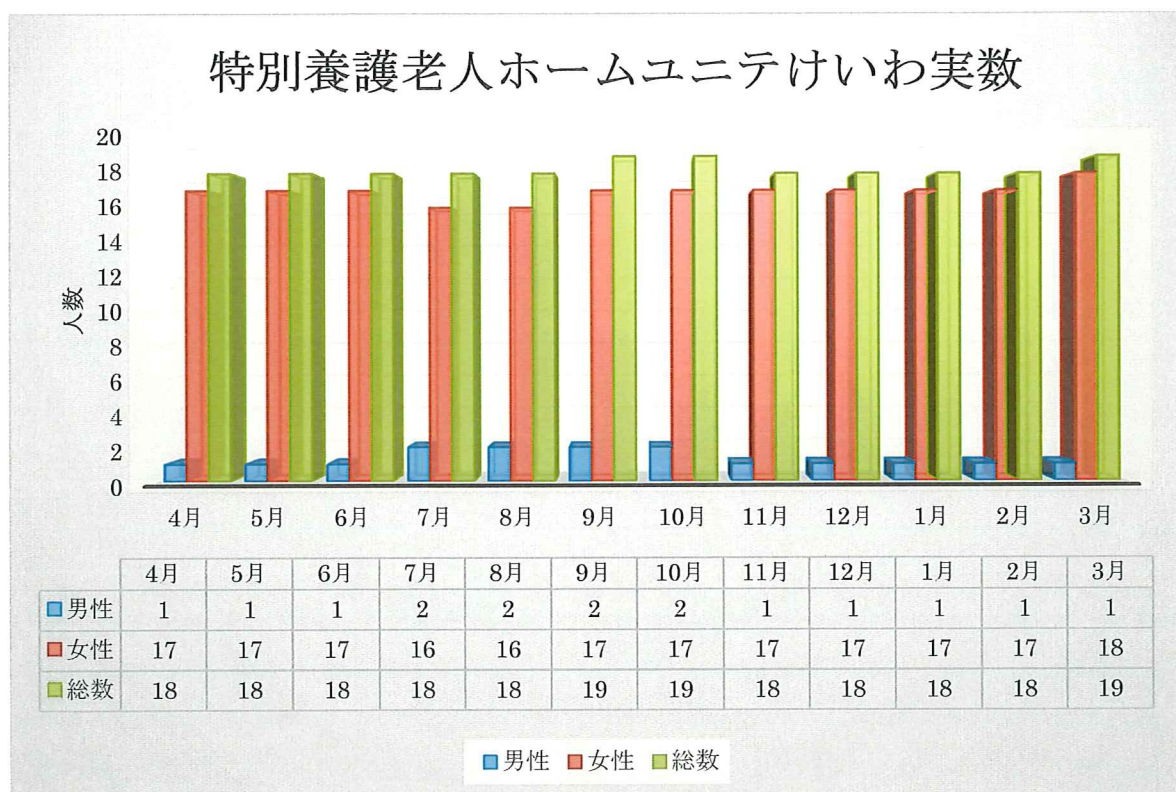
6) 年間施設稼働実績表（実数）

① 高齢者生活支援施設 けいわ荘



※ 施設の定員は82名です。各月の合計数は、退所者数（永眠）と新規入所者数が重複加算されています。

② 特別養護老人ホームユニテ けいわ



※ 施設の定員は18名です。各月の合計数は、退所者数（永眠）と新規入所者数が重複加算されています。

7) クラブ活動実績表

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計
音楽療法	189	147	163	181	149	175	140	141	156	114	155	180	1,890
万葉の火	6				7				6				19
踊り	19	21	23				26	22			24	26	161
生 花	10	10	10	9	10	10	6	9	9	9	9	9	110
合 計	224	178	196	190	166	185	172	172	171	123	188	215	2,180

8) 行 事 報 告

実 施 日	行 事 名	利用者参加人数
平成 28 年 4 月 4 日	お花見（けいわ荘園庭）	
6 日	ホーム喫茶	64 名
7 日	生活排水説明会	5 名
8 日	4 月誕生会	誕生者 11 名
17 日	陽だまり 1 丁目クッキング（ピザトースト）	34 名
19 日	ユニテひまわりおやつ作り（焼きそば）	9 名
21 日	消防訓練	27 名
30 日	ユニテさくらおにぎり作り	9 名
5 月 9 日	5 月誕生会	誕生者 6 名
11 日	ホーム喫茶	52 名
16 日	陽だまりお茶会（けいわ荘園庭）	15 名
18 日	春の遠足（ユニテ）：愛川公園	3 名
27 日	役員会	
29 日	さざんかクッキングクラブ（チョコレートフォンデュ）	24 名
30 日	春の遠足（ユニテ）：平塚総合公園	4 名
6 月 1 日	ホーム喫茶	55 名
2 日	かながわ高齢者福祉研究退会	
4 日	荻野小学校運動会参加	2 名
8 日	ケアハウスえがりて（握り寿司バイキング）	26 名
8 日	春の遠足（コスモス）：宮ヶ瀬湖畔園地	5 名
15 日	春の遠足（さざんか）：愛川公園	3 名
20 日	陽だまり（ホッケーキ作り）	15 名
21 日	ユニテひまわり（おやつ作り）	9 名
21 日	6 月誕生会	誕生者 16 名
22 日	ユニテさくら（ホットケーキ作り）	9 名
29 日	コスモス（昼食おかず作り）	28 名
7 月 5 日	開所記念日	
6 日	ホーム喫茶	55 名

13日	7月誕生会	誕生者 11 名
28日	納涼祭	
31日	陽だまり（花火大会）	15 名
8月 3日	ホーム喫茶	65 名
14日	夕涼み会（けいわ荘園庭）	22 名
18日	8月誕生会	誕生者 8 名
24日～25日	高校生インターンシップ（愛川高等学校）	1 名
26日	ふれあい交流会（バーベキュー）	32 名
9月 6日	9月誕生会	誕生者 7 名
17日	敬老会	
17日	役員会	
26日	物故祭	
10月 3日～14日	現場実習（伊勢原養護学校）	1 名
5日	ホーム喫茶	58 名
5日	赤い羽根共同街頭募金	3
8日	運動会（雨天のため多目的ホール）	48 名
8日	荻野中学校介護体験	2 名
13日	デイサービス風船バレー大会（荻野運動公園）	
14日	10月誕生会	誕生者 6 名
17日	秋の遠足（陽だまり）：ガストとドライブ	4 名
20日	防災訓練	30 名
20日	陽だまり（喫茶）	30 名
25日	ユニテ（さくら）食欲の秋：フルーツポンチ	9 名
25日	ユニテ（ひまわり）おやつ作り	9 名
27日～28日	小鮎中学校介護体験	2 名
11月 2日	ホーム喫茶	45 名
7日～12月 5日	介護実習Ⅱ（和泉短期大学）	1 名
11日	岡田保育園慰問	
14日	11月誕生会	誕生者 10 名
14日～25日	現場実習（伊勢原養護学校）	1 名
15日	秋の遠足（さざんか・コスモス）	5 名
21日	陽だまり 2 丁目蒸し料理とデザート作り	15 名
21日	ユニテ（ひまわり）おやつ作り	9 名
30日	ユニテ（さくら）焼き芋	9 名
12月 7日	ホーム喫茶	50 名
7日	クリスマスツリー見学	10 名
14日	12月誕生会	誕生者 7 名
15日	ユニテ（さくら）クリスマス会	9 名

17日	ユニテ（ひまわり）クリスマス会	9名
19日	陽だまりクリスマス会	30名
21日	さざんか：クリスマス会	23名
21日	コスモス：クリスマス会	28名
28日	餅つき	59名
29日	仕事納め	
平成 29 年 1 月 1日	お屠蘇・正月膳	
1日	陽だまり初詣	3名
2日	正月膳	
3日	正月膳	
19日～20日	荻野中学校介護体験	2名
4日	仕事始め	
4日～31日	ふれあい書道展参加	5名
7日	七草粥	
12日	鏡開き	
13日	どんど焼き	
17日	1月誕生会	誕生者 17名
18日	コスモス新年会	28名
23日	ユニテ初詣：半増坊	3名
27日	ユニテ初詣：半増坊	3名
2月 1日	ホーム喫茶	55名
3日	陽だまり節分	30名
3日	ユニテ節分	18名
8日	さざんかクッキング（豚汁作り）	23名
9日	2月誕生会	19名
16日	陽だまり（喫茶）	30名
3月 1日	ホーム喫茶	48名
3日	ひな祭り	
8日	ボランティア親睦会	
12日	ふれあい交流会	30名
15日	3月誕生会	13名
24日	役員会	
24日	ユニテ（さくら）：お寿司バイキング	9名

9) 諸会議

① 委員会

	労働安全衛生	身体拘束廃止	接 遇	施設研修	事故防止	感 染 症	マニュアル
年間実施回数	10	5	4	9	3	5	10

② 生活支援課委員会

	入退所	給食	ふれあい
年間実施回数	12	12	5

③ 行事实行委員会

	納涼祭	敬老会	地域密着型 運営推進会議
年間実施回数	2	2	4

② 地域交流実績

1) 大学教員志望介護実習生の受入れ

学 校 名	人 数	学 校 名	人 数
東海大学	1	明星大学	1
松蔭大学	1	横浜国立大学	1
杏林大学	1	東京工芸大学	9
昭和音楽大学	1		
総 数	15		

2) 介護実習生の受入れ

学 校 名	人 数
YMCA 健康福祉専門学校	1
和泉短期大学	1
総 数	2

3) 看護専門学校実習生の受入れ

学 校 名	人 数
厚木看護専門学校	14
総 数	14

4) 慰 問

団 体 名	人 数	団 体 名	人 数
みやびの会	24	ガールスカウト	14
厚木キリスト教会	19	けいわ保育園	13
尺八	4	岡田保育園	18
荻野小学校生徒	16	総 数	119
厚木市立厚木中学校演劇部	11		

5) 介護体験・インターンシップ

学 校 名	人 数
厚木市立荻野中学校	4
厚木市立小鮎中学校	2
横浜市立瀬谷中学校	2
神奈川県立愛川高等学校	1
県立清南高等学校	1
総 数	10

6) 養護学校現場実習生受入れ(2 回実施)

学 校 名	人 数
県立伊勢原養護学校	1
総 数	1

③ ボランティア実績表

1) 団 体 (延べ 689 名)

団体名 月	土の会	育の会	コスモスの会	緑ヶ丘 民生	厚木北 民生	荻野民生	厚木シニア クラブ	トキの会	総 数
援助内容	リネン交換 納涼祭補助	リネン交換 納涼祭補助	リネン交換 納涼祭補助	リネン交換 納涼祭補助	リネン交換 ホーム喫茶 納涼祭補助	リネン交換 納涼祭補助	縫い物 納涼祭補助	通所介護	
4	11	8	4	0	10	25	7	3	68
5	9	10	0	0	10	27	8	2	66
6	5	7	4	6	10	20	8	3	63
7	9	10	2	0	9	35	8	1	74
8	8	4	4	6	10	15	8	4	59
9	5	8	0	0	0	24	8	1	46
10	5	10	4	0	8	27	8	0	62
11	7	9	4	5	10	29	8	2	74
12	6	7	4	0	9	17	8	2	53
1	0	0	0	0	4	16	3	3	26
2	7	11	0	0	4	24	8	2	56
3	8	8	4	0	5	8	6	3	42
総 数	80	92	30	17	89	267	88	26	689

2) 個人ボランティア (延べ 144 名)

援助内容 月	傾 聴 (4名)	車椅子清掃 (3名)	よもやま話 (1名)	理 容 (1名)	生 花 (3名)	総 数
4	0	3	2	1	3	9
5	4	3	2	1	3	13
6	8	3	2	0	3	16
7	4	3	2	1	3	13
8	4	3	2	1	3	13
9	4	3	2	0	3	12
10	3	3	2	0	3	11
11	6	3	1	1	3	14
12	5	3	1	0	3	12
1	2	3	1	0	3	9
2	4	3	0	0	3	10
3	4	3	1	1	3	12
総 数	48	36	18	6	36	144

【施設ケアマネージャー】

プラン実績表

部 署	年間総数
一般棟 1 階（さざんか）	32
一般棟 2 階（コスモス）	41
認知症棟（陽だまり）	37
ユニット棟（さくら・ひまわり）	24
総 数	134

【栄 養】

■ 入所者の主食形態・副食形態表

主食形態 副食形態	米 飯 A (220g)	米 飯 B (150g)	米 飯 C (110g)	軟 飯 A (270g)	軟 飯 B (180g)	軟 飯 C (140g)	おにぎり	全 粥 A (360g)	全 粥 B (220g)	全 粥 C (150g)	粥ゼリー	総 数
常 食		36	3		2	1			2	2		46
軟菜食一口大			7		1	2			1			11
軟菜食刻み		4	7	1	2	1	3		2	3		23
軟菜食極刻		1				2	1		12	3	1	20
軟菜食リト							1	1	3	9	5	19
軟菜食ミサ-									1	1	2	4
総 数	0	41	17	1	5	6	5	1	21	18	8	123

※経 管 栄 養 3 名

※栄養補助食品 20 名

2. 地域支援課

総 括

利用者が住み慣れた地域の中で、いつまでも自立して、健やかに安心・安全な生活を営むことができるよう、生活環境の整備を側面から支援するとともに、生活意欲の高揚に繋がるキメ細やかな心のこもったサービスの提供に努めてまいりました。

また、利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者個々人やご家族の立場に立った利用者本位のサービスの提供を実践してまいりました。

保険者、公的機関、医療機関や地域包括支援センター、居宅介護支援事業所等との連携および相互連絡を積極的に実施し、ご利用者が充実した生活を送ることができるよう、総合的サービスの提供に努めてまいりました。

地域との結びつきを重視し、地域行事への参加を積極的に行うと共に、けいわ荘の知識や技術を地域福祉に還元してまいりました。

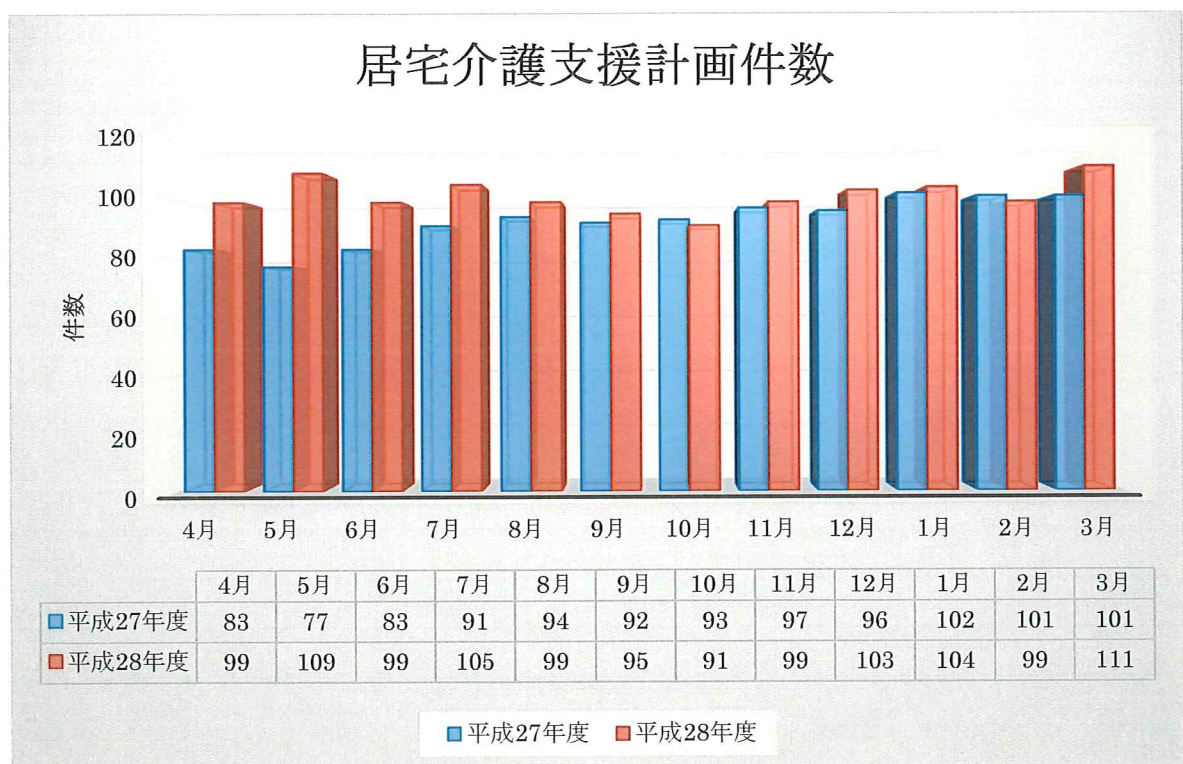
1) 居宅介護支援センターけいわ荘

I) 居宅介護支援

平成 28 年度年間計画件数 1,213 件

平成 27 年度年間計画件数 1,110 件

(前年度比 9.3%増)

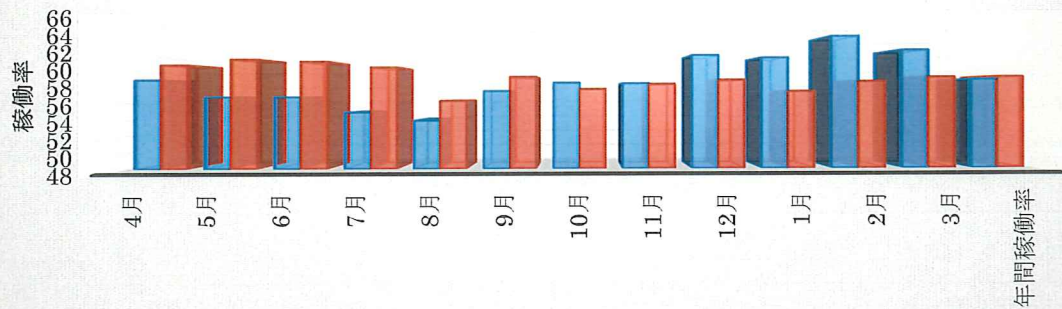


Ⅱ) 通所介護

平成 28 年度稼働率 59.1%

平成 27 年度稼働率 58.8%

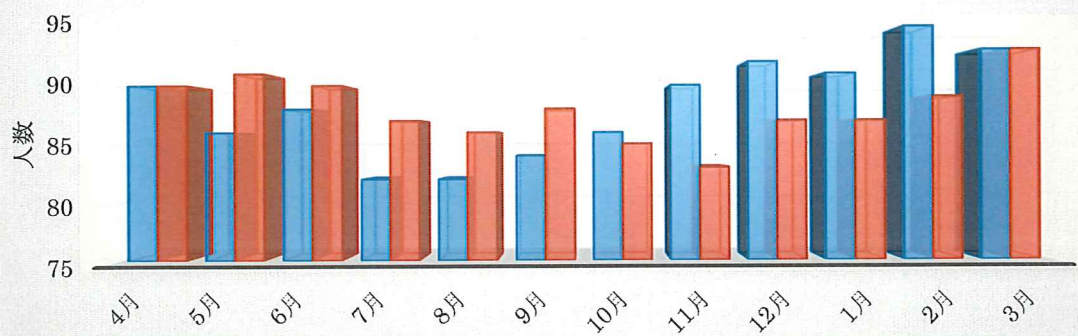
通所介護稼働率



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間稼働率
平成27年度	58.9	56.8	56.8	54.9	53.9	57.5	58.5	58.4	61.8	61.5	64.1	62.4	58.8
平成28年度	60.7	61.4	61.1	60.4	56.3	59.2	57.7	58.3	58.8	57.4	58.6	59.1	59.1

■平成27年度 ■平成28年度

通所介護利用者実数



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成27年度	90	86	88	82	82	84	86	90	92	91	95	93
平成28年度	90	91	90	87	86	88	85	83	87	87	89	93

月

■平成27年度 ■平成28年度

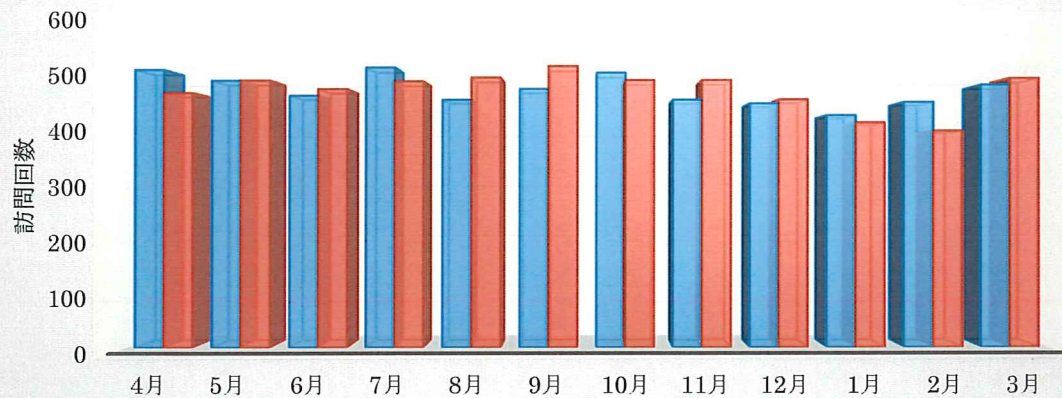
Ⅲ) 訪問介護（障害福祉を含む）

平成 28 年度延べ人数 5,736 人

平成 27 年度延べ人数 5,736 人

（前年度比 ±0）

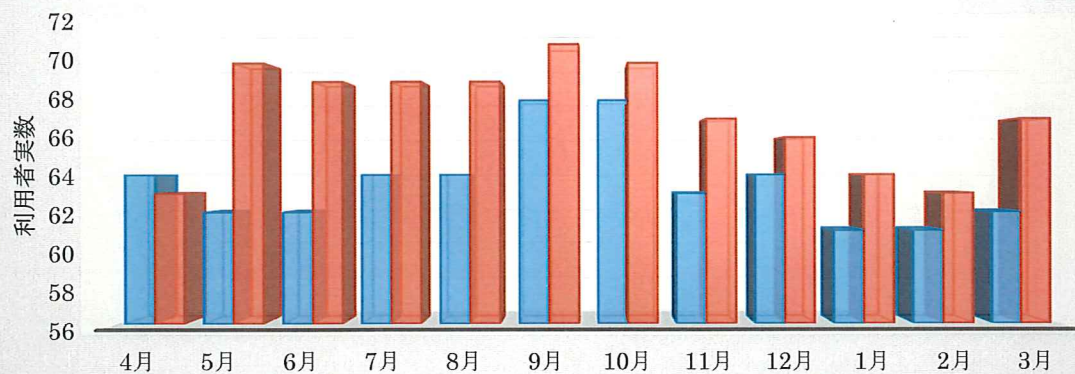
訪問介護訪問回数実績



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成27年度	516	496	468	520	460	480	510	460	453	431	455	487
平成28年度	473	496	480	494	501	522	496	496	460	417	402	499

■平成27年度 ■平成28年度

訪問介護利用者実数



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成27年度	64	62	62	64	64	68	68	63	64	61	61	62
平成28年度	63	70	69	69	69	71	70	67	66	64	63	67

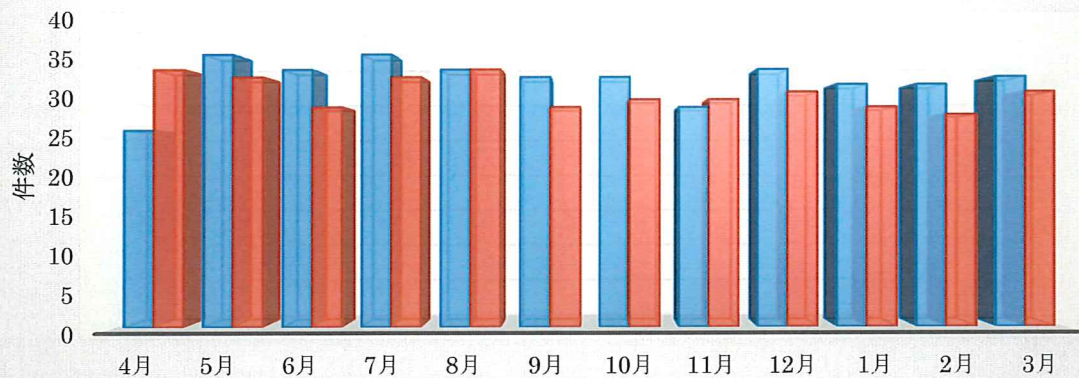
■平成27年度 ■平成28年度

平成 28 年度件数 371 件

平成 27 年度件数 392 件

(前年度比 5.4%減)

障害者自立支援実績



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成27年度	26	36	34	36	34	33	33	29	34	32	32	33
平成28年度	34	33	29	33	34	29	30	30	31	29	28	31

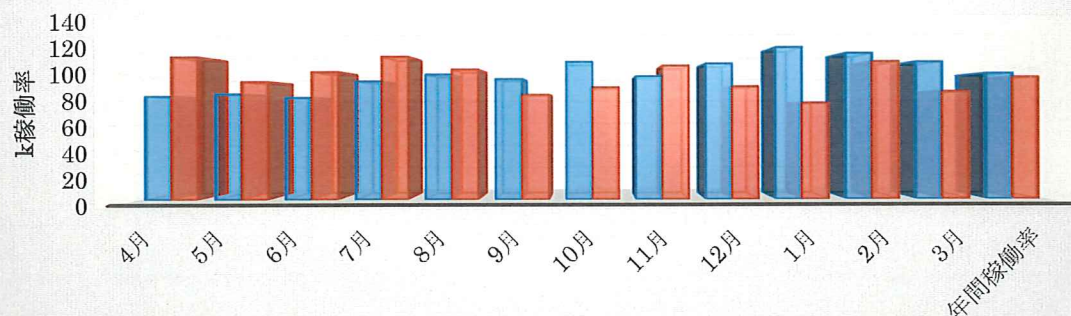
■平成27年度 ■平成28年度

Ⅳ) 短期入所生活介護

平成 28 年度稼働率 98.0%

平成 27 年度稼働率 101.0%

短期入所稼働率



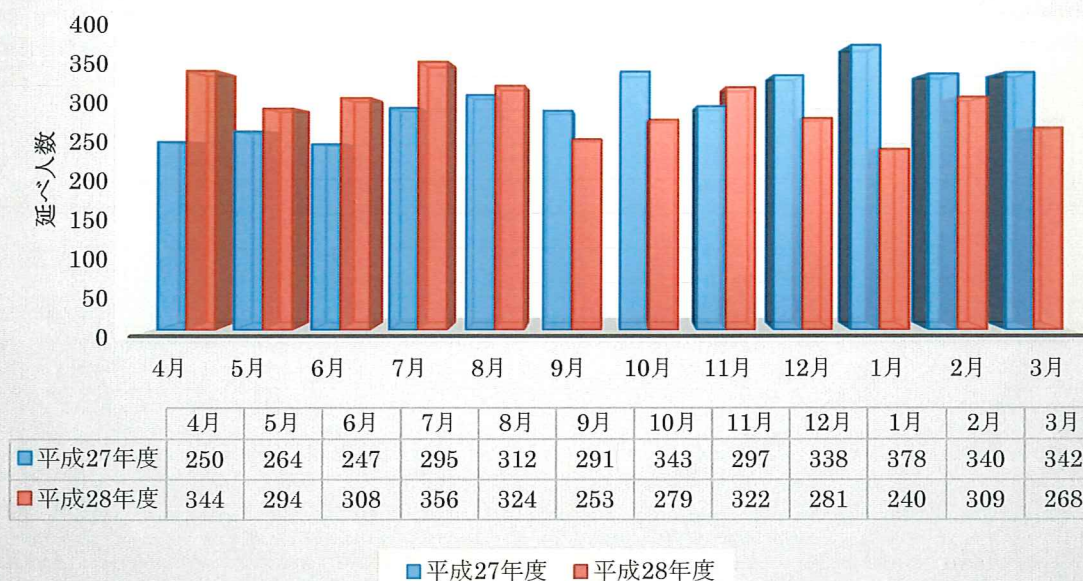
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間稼働率
平成27年度	83.3	85.2	82.3	95.2	100.6	97	110.6	99	109	121.9	117.2	110.3	101
平成28年度	114.7	94.8	102.7	114.8	104.5	84.3	90	107.3	90.6	77.4	110.4	86.5	98

■平成27年度 ■平成28年度

平成 28 年度延べ利用者数 3,578 人

平成 27 年度延べ利用者数 3,697 人

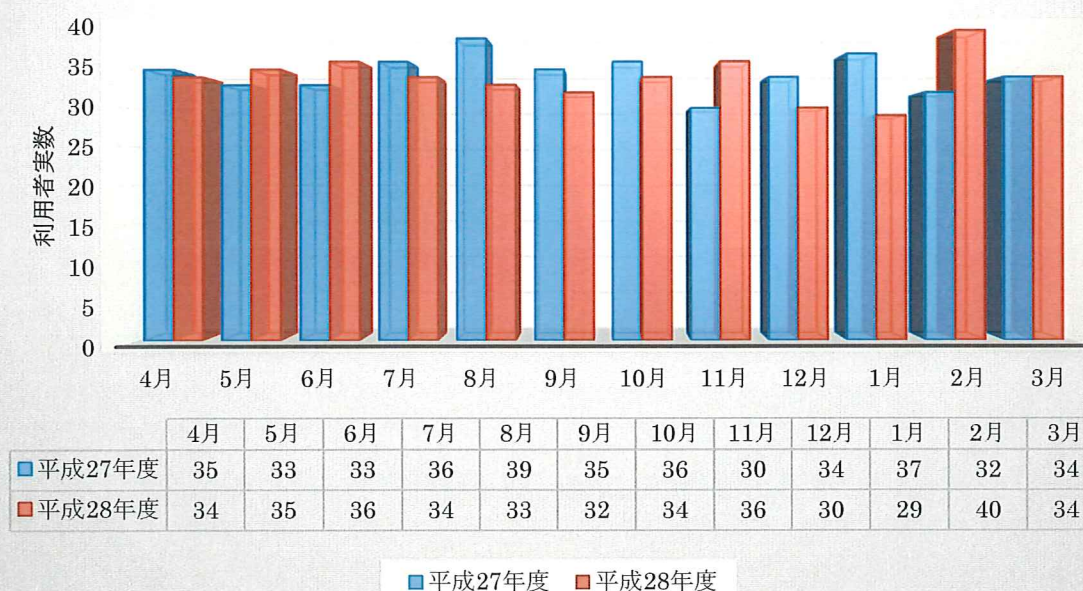
短期入所延べ利用者数



平成 28 年度年間利用者実数 407 人

平成 27 年度年間利用者実数 414 人

短期入所利用者実数



2) 地域包括支援センター

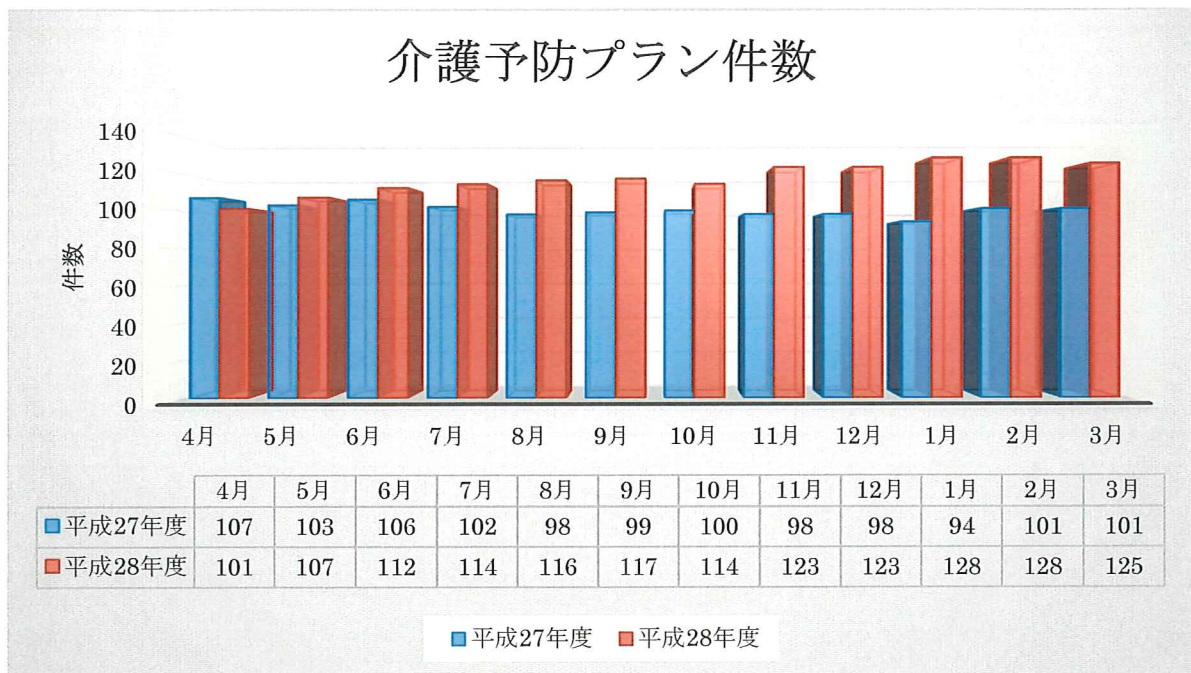
【実 績】

① 支援件数

① 介護予防プラン件数

平成 28 年度件数 1,408 件

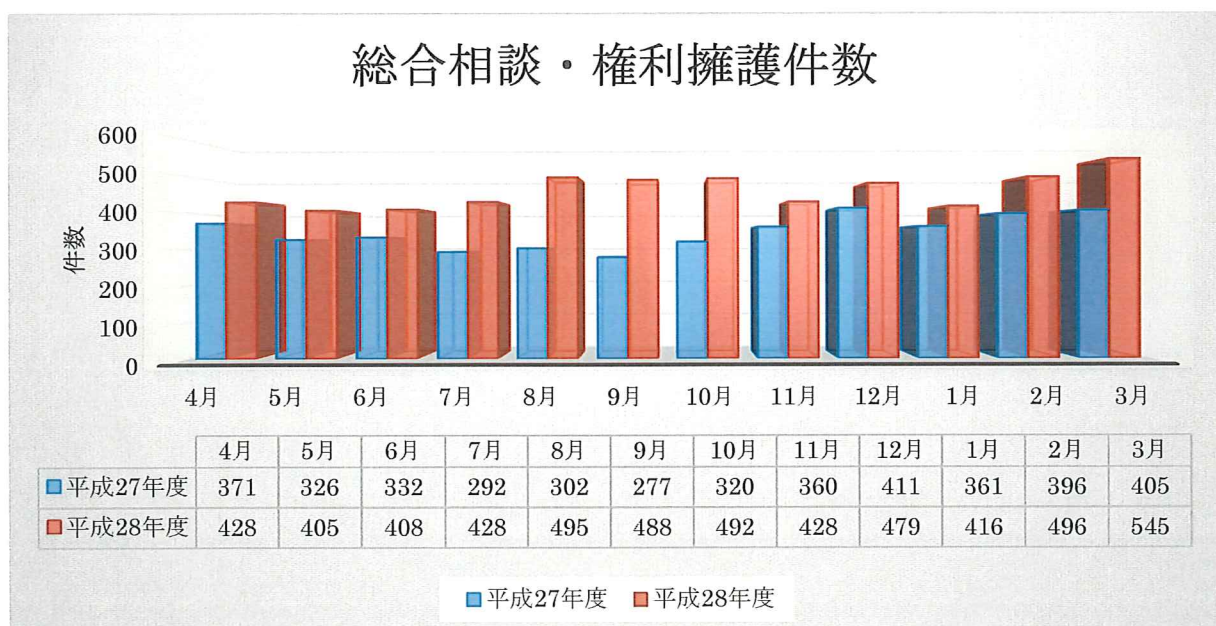
平成 27 年度件数 1,207 件



② 総合相談・権利擁護件数

平成 28 年度件数 5,508 件

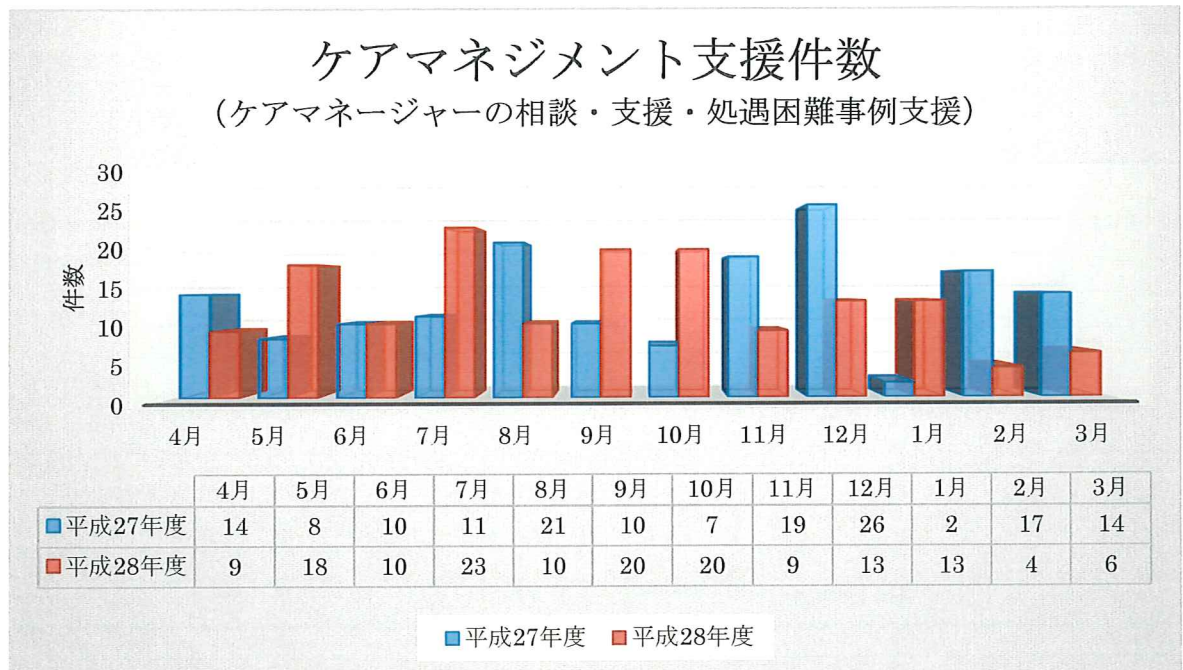
平成 27 年度件数 4,153 件



③ ケアマネジメント支援件数(ケアマネジャーの相談・支援、処遇困難事例支援)

平成 28 年度件数 155 件

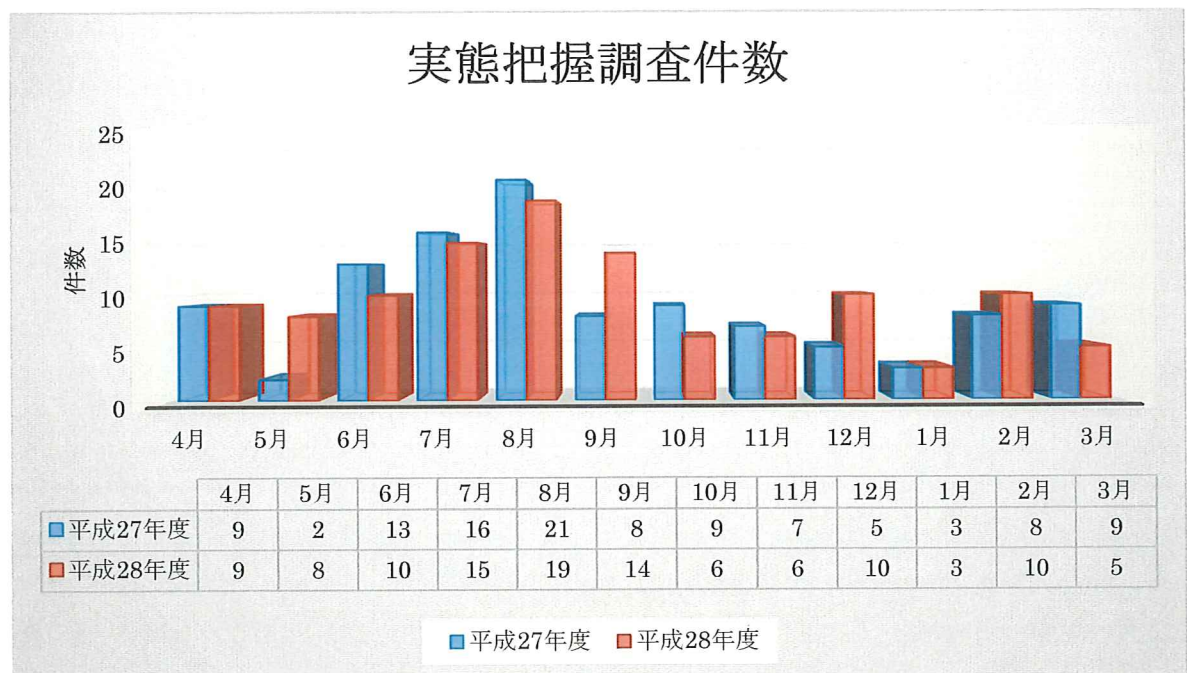
平成 27 年度件数 159 件



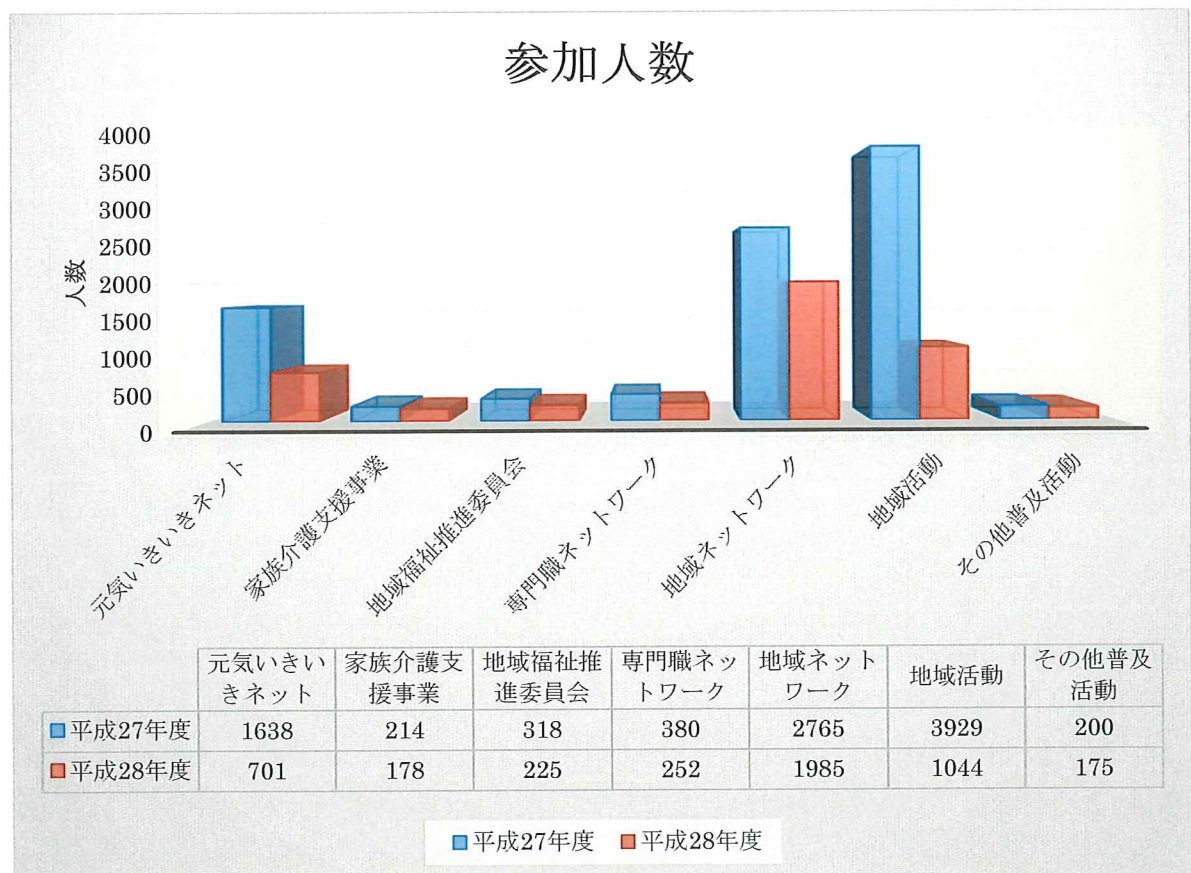
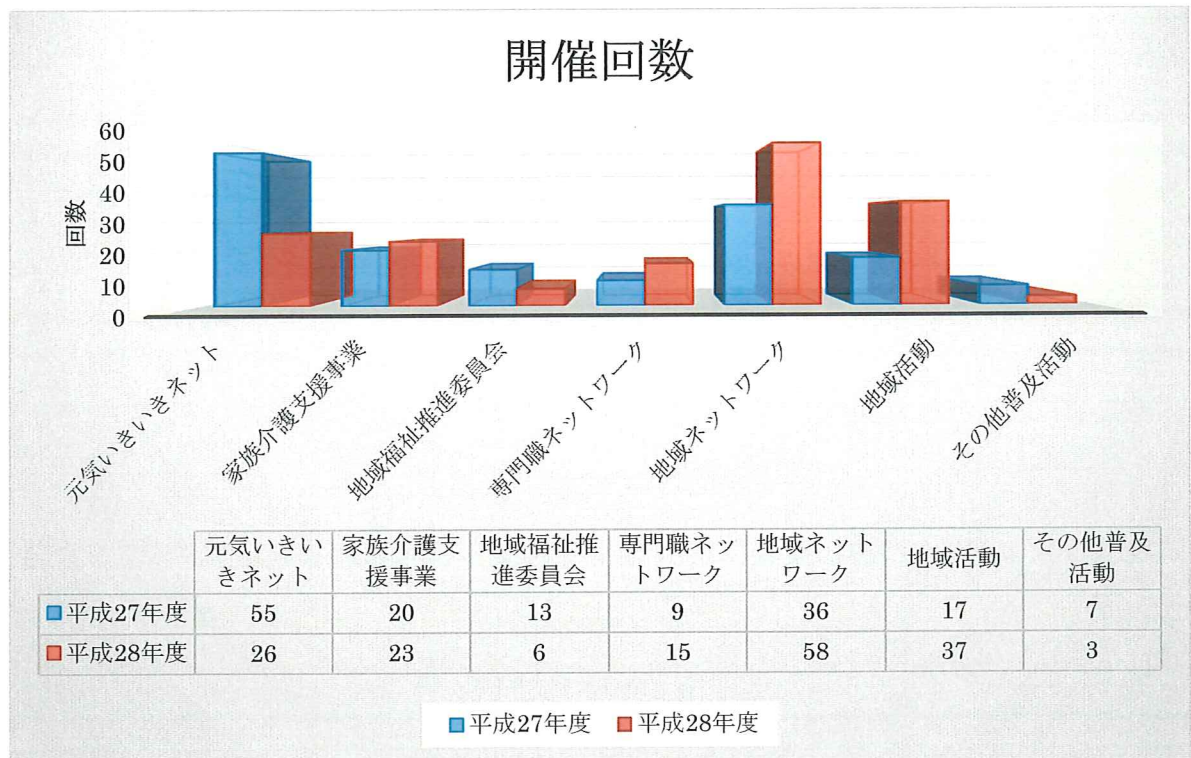
④ 実態把握調査件数

平成 28 年度件数 115 件

平成 27 年度件数 120 件



⑤ 教室・相談・会議等の活動状況

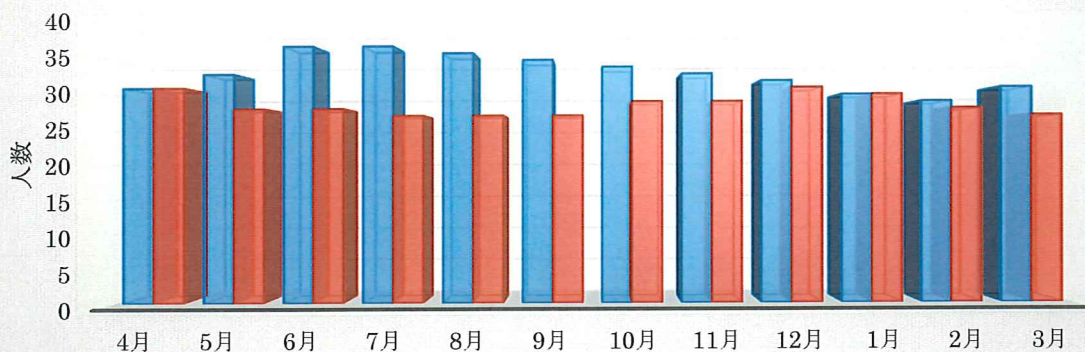


3) 配食サービス

平成 28 年度年間利用者実数 342 人

平成 27 年度年間利用者実数 398 人

高齢者配食利用者実数



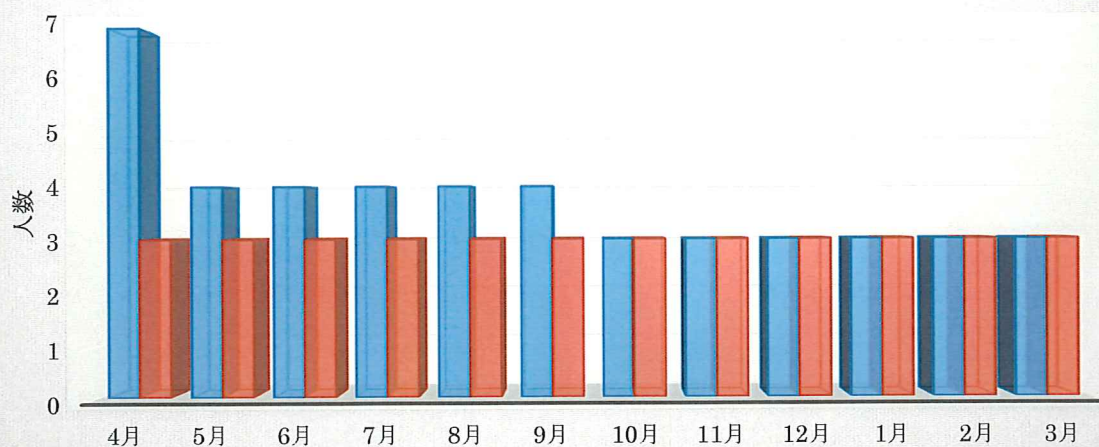
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成27年度	31	33	37	37	36	35	34	33	32	30	29	31
平成28年度	31	28	28	27	27	27	29	29	31	30	28	27

■平成27年度 ■平成28年度

平成 28 年度年間利用者実数 36 人

平成 27 年度年間利用者実数 45 人

障がい者配食利用者実数



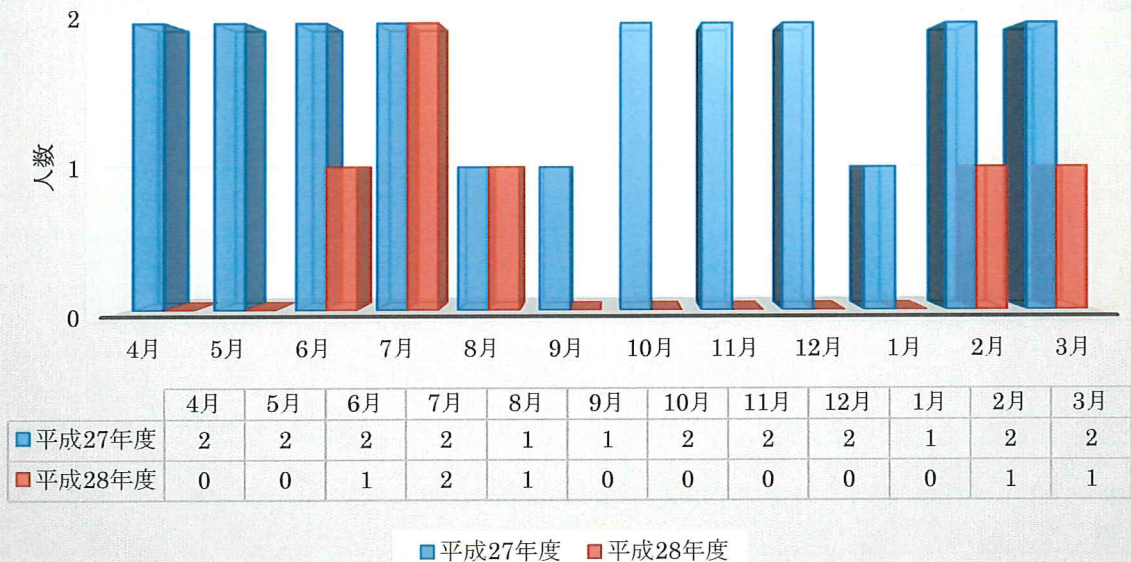
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成27年度	7	4	4	4	4	4	3	3	3	3	3	3
平成28年度	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3

■平成27年度 ■平成28年度

平成 28 年度年間利用者実数 6 人

平成 27 年度年間利用者実数 21 人

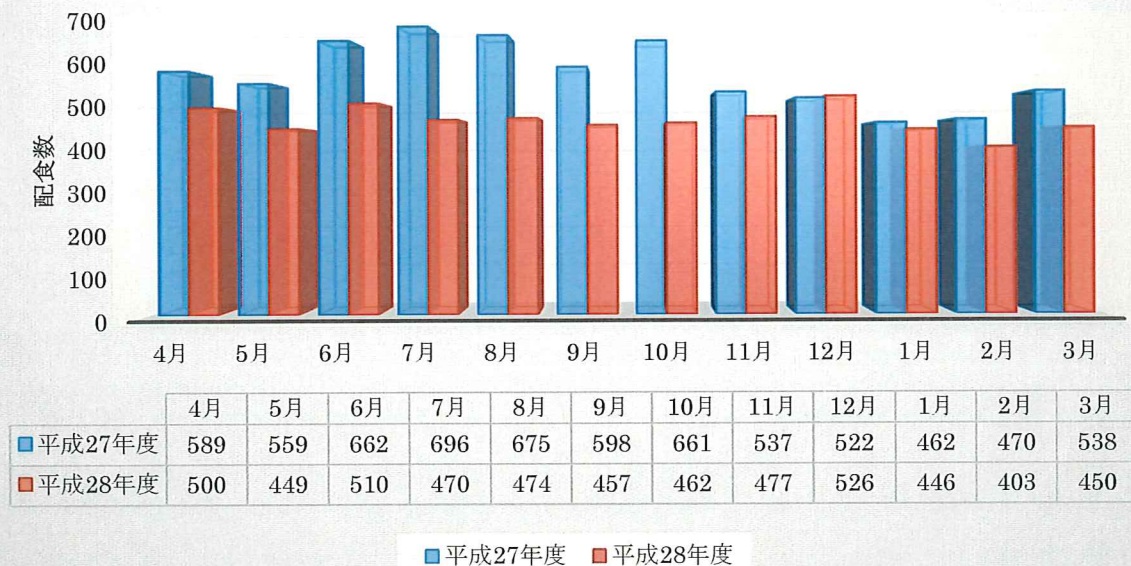
自費配食利用者実数



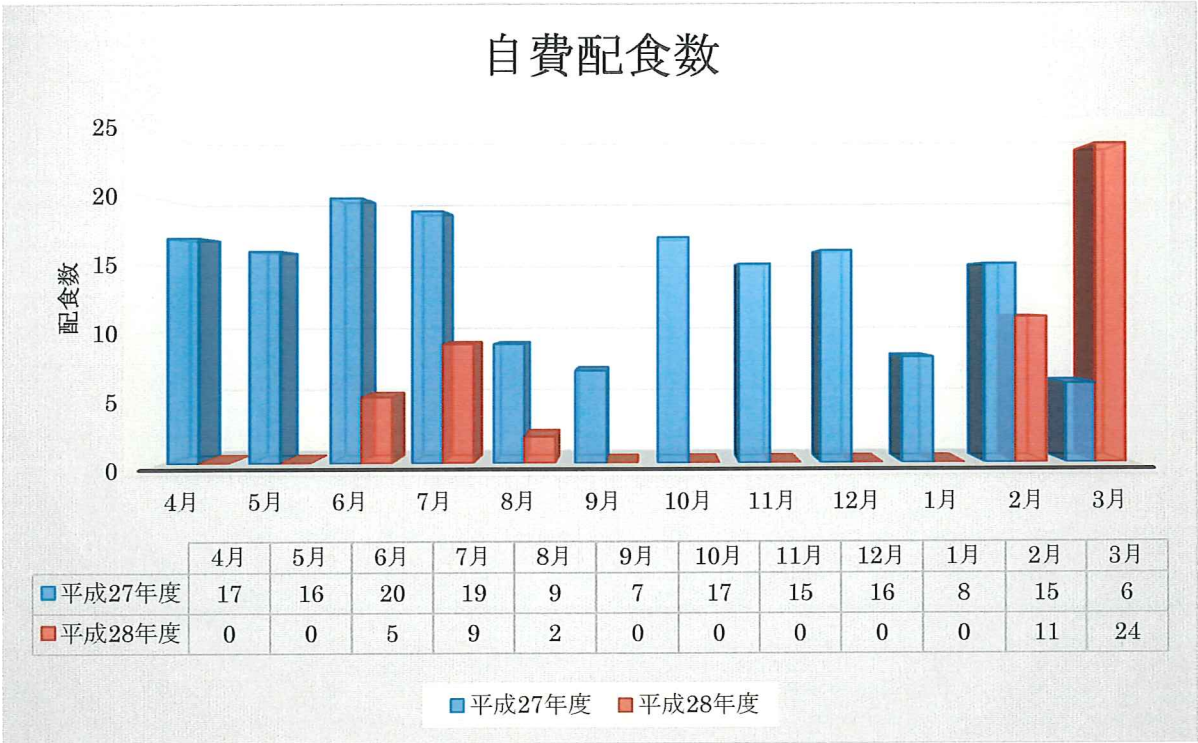
平成 28 年度年間配食数 5,624 食

平成 27 年度年間配食数 6,969 食

高齢者配食数



平成 28 年度年間配食数 446 食
平成 27 年度年間配食数 543 食



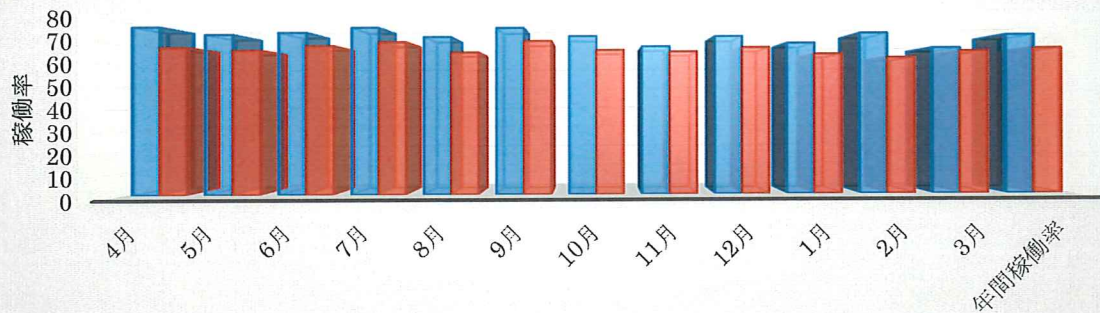
4) えまーぶる

I) 通所介護事業所えまーぶる

平成 28 年度稼働率 67.0%

平成 27 年度稼働率 73.3%

通所介護事業所えまーぶる稼働率



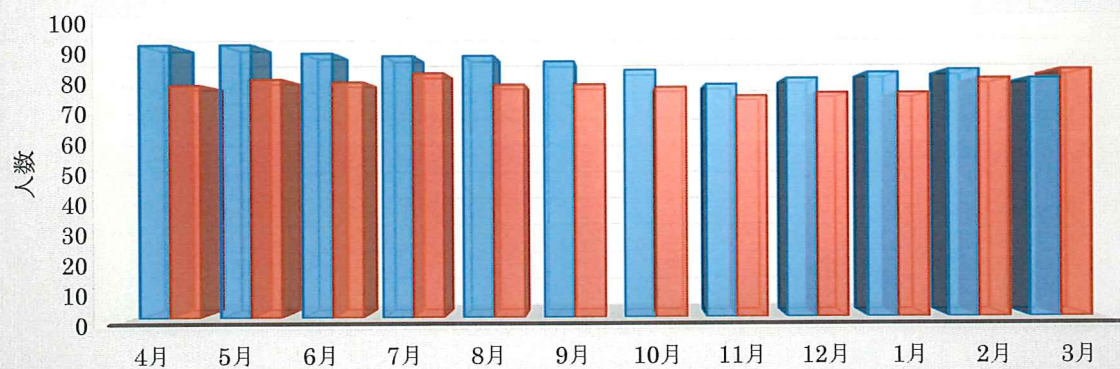
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間稼働率
平成27年度	77.8	74.2	75.1	77.3	72.9	77	73.1	68.2	72.8	69.6	74.1	67.3	73.3
平成28年度	68.2	66.8	68.8	70.5	65.6	70.9	66.6	65.7	67.6	64.5	62.8	65.8	67

■平成27年度 ■平成28年度

平成 28 年度年間利用者実数 963 名

平成 27 年度年間利用者実数 1,045 名

通所介護事業所えまーぶる利用者実数



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成27年度	94	94	91	90	90	88	85	80	82	84	85	82
平成28年度	80	82	81	84	80	80	79	76	77	77	82	85

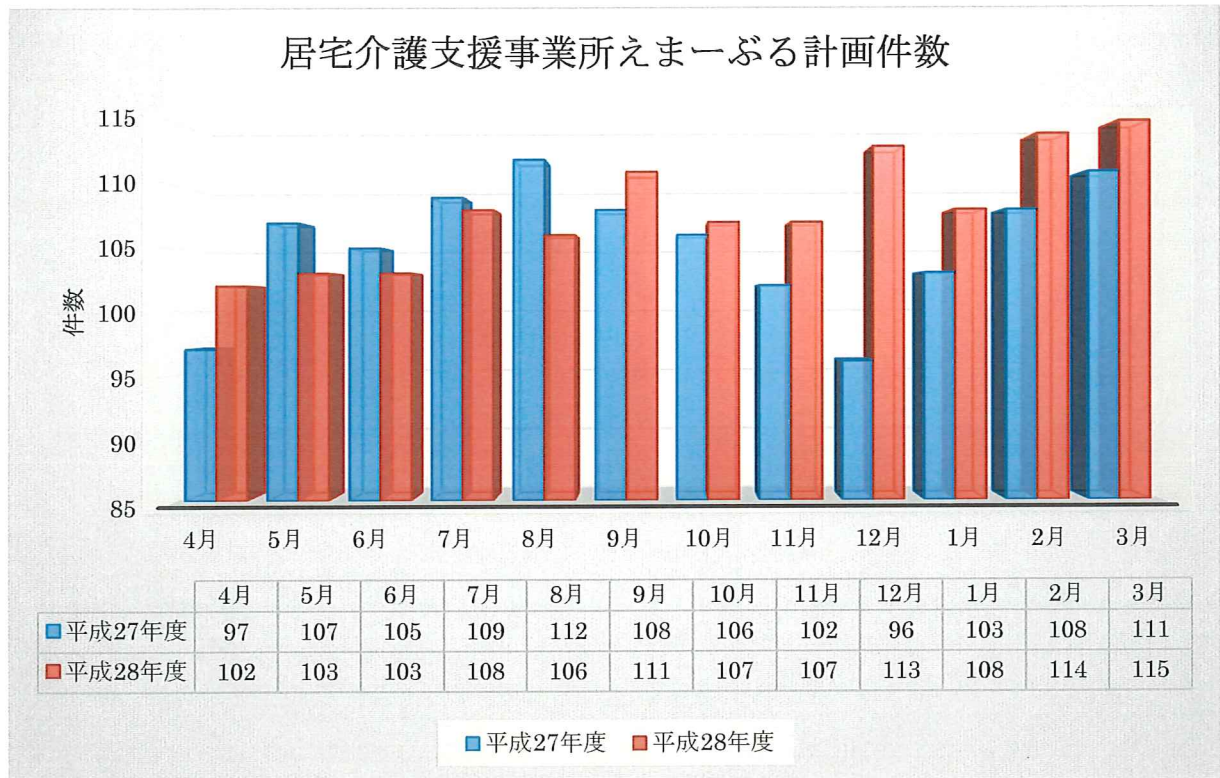
■平成27年度 ■平成28年度

Ⅱ) 居宅介護支援事業所えまーぶる

平成 28 年度年間計画件数 1,297 件

平成 27 年度年間計画件数 1,264 件

(前年度比 2.6%増)



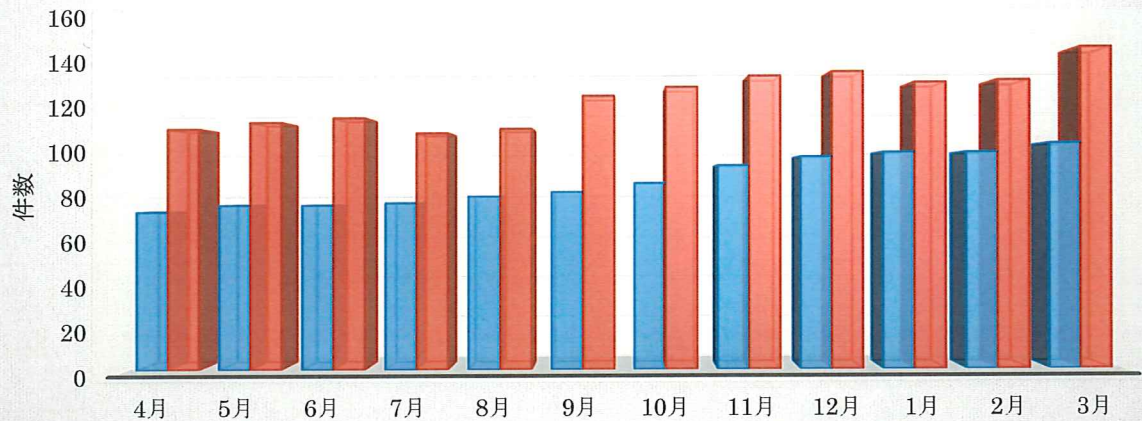
5) ケアプランセンターけいわ

平成 28 年度年間計画件数 1,502 件

平成 27 年度年間計画件数 1,046 件

(前年度比 43.6%増)

ケアプランセンターけいわ計画件数



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成27年度	73	76	76	77	80	82	86	94	98	100	100	104
平成28年度	111	114	116	109	111	126	130	135	137	132	133	148

■平成27年度 ■平成28年度

3. 管財課

総 括

懸案事項でありました、水道管の改修（給水管の直接取り入れ）工事を今年度実施し、終了することができました。一昨年の漏水時には、入居者の皆様に大変ご不便をお掛けいたしました。今後も監視を怠り無く管理してまいりたいと思います。防災及び交通事故防止においては、それぞれマニュアルを新たに作成し、きめ細やかな管理体制を構築し、安全体制を強化し、今後継続したいと思います。

（重点取組事項）

- （1）ライフライン安定供給の構築
- （2）地震防災の強化と防火対策
- （3）交通事故防止活動の実施

取組事項		取組内容と達成目標	目標達成状況
（1）	①給水装置の改修	県水道本管を施設敷地まで延長、受水槽を新設し飲料水、生活用水の安定供給をおこなう。	7月に新設受水槽基盤整備を完了し、9月より給水管布設及び受水槽工事を着工、12月上旬完了しました。順調に稼働しています。
	②給湯システム改良工事後の効果検証	新館棟給湯システム改良策としてエコキュート設備を新設、既存ボイラーに接続しハイブリット方式で燃料削減をめざしている。運転データを取り最適な運転状況となるよう調整・管理を行う。	エコキュート導入後、徐々に燃費効果が進んでいて、今年度は導入前より45%灯油を削減できました。今後も最大限の効果が出るよう引き続きデータを取り、機器の調整管理を行います。
	③自主的な設備営繕の遂行	簡易的な修繕、清掃業務については極力施設スタッフにて恒久的に行う。また物品の購入、設備工事及び契約等の更新時には複数の業者に見積を依頼し経費のコストダウンを図る。	新館3・4階洗濯室の改修の他、壁紙等の張替え及び施設侵入防止のセンサーライトの設置等を行った。
（2）	①地震災害の備えと対策	防災対策マニュアルの見直しをします。各部署別の行動基準を定め、各職員が迅速に適切な行動がとれるよう、安全対策をより一層進めます。また災害時等で職員の安	各部署単位の防災マニュアルをフローチャート方式で作成。6・10月にはマニュアルを基に地震直後の対応、災害用備品を使った応急対策訓練や屋内階段からの下階への避

		否確認及び連絡方法として、インターネットを活用したシステムを導入します。	難方法及び安否確認メールの返信方法の確認等を行った。
	② 消防訓練と防災訓練の実施	主として夜間時の火災発生を想定した訓練とし、新規職員を含めた出来るだけ多くの職員参加で行う。また地震を想定した防災訓練では防災対策マニュアルを活用し、緊張感を持った訓練とする。	4 月 26 日に主に新入職員を対象に夜間火災を想定した通報・初期消火・避難訓練を行った。(参加者 27 名)
(3)	① 交通事故防止の推進	高齢者やオートバイの関係する交通事故が多発している現状があり、基本的な交通ルールの厳守やマナーを遵守するよう、掲示板等で安全教育を推進する。	職員の送迎時、訪問時並びに通勤時を含めた交通事故防止を目的とした安全運転マニュアルを作成した。 各季節の交通安全週間に合わせ、けいわ荘安全運転 10 ケ条等を標示し、交通規則を厳守するよう教育した。
	② 施設車両の管理	整備不良で重大な事故につながるよう定期点検や送迎前等で日常点検を実施するよう教育する。 交通事故が発生した場合は負傷者救助を最優先とし、保険会社と連携しながら対応する。	軽度な物損事故は 4 件ほどありましたが、人身事故等は幸いありませんでした。車両 29 台の車検及び点検整備を定時に行い、重大な事故に繋がらない様管理しました。

主な平成 28 年度施設補修・改修関係内訳書

番号	補修改修項目	場所	番号	補修改修項目	場所
1	新設受水槽基礎工事	施設	8	給水施設改修電気工事	施設
2	プロジェクター交換	通所介護	9	給水引込、受水槽工事	施設
3	エアコン修理	通所介護	10	受水槽目隠しフェンス工事	施設
4	新設受水槽フェンス	施設	11	機械室換気装置修理	新館地下
5	温蔵庫交換	厨房	12	浄化槽水中ポンプ 2 台交換	新館
6	3 モーターベッド購入	一般棟	13	エレベーター修理	ユニテ
7	機械浴槽修理	全般	14	全自動軟水器増設	厨房

4. 総務課

総 括

平成 28 年度は「社会福祉法人等の一部を改正する法案」により社会福祉法人制度の在り方についての改正がなされました。この改革が本格的に始まったことにより国レベルの動きは勿論、県や市町村の方針についてもしっかりと情報収集を行うとともに、行政情報のみに翻弄されることなく、法人理念に基づいた「あるべき姿」も見据えつつ、当法人の中期ビジョンを描きつつ、経営の安定を目指してまいりました。

(重点取組事項)

- (1) 利用者サービスの充実
- (2) 職員及び指導層の充実と育成
- (3) 業務の合理化と科学化の取り組み
- (4) 経営力アップと新規事業への取り組み

取組事項		取組内容と達成目標	目標達成状況
(1)	①より良いサービス提供へのサポート	各職員が質の高いサービス提供が行えるよう裏方として支える。 ご利用者およびご家族のニーズに耳を傾け、できる限り要望に応えられる体制を構築する。	介護職員がクオリティの高いサービスの提供が行えるよう、事務職員一丸となって協力した。 その結果、ご利用者ならびにご家族のニーズに近付けることができた。
	②心からの接遇	電話・窓口対応等にあたり、心配り・気配り・気のつく対応に努める。	接遇に対するスキルの向上に努めたが、十分とは言えず、次年度の課題となった。
	③満足度・信頼感の充実	サービスに対する満足度の把握や苦情等への迅速な対応に努める。 財務帳票等の公表により透明性を担保し信頼を得る。	窓口での挨拶・笑顔を絶やさず励行できたと考える。 苦情等は殆どなく、ステークホルダーからの信頼は得られていると考える。
(2)	①研修支援	職員の資質向上のための施設内外での研修を支援すると共に自らも積極的に参加する。 指導層の職員に対しては定期的な研修会に参加させスキルアップを目指す。	年 3 回の施設内研修を実施し、職員個々のスキルアップに繋がった。 外部研修会では、職員に対し、積極的に参加できるよう奨励・配慮した。

	②人事考課と人材確保	職員の勤労意欲の向上を図るための人事考課制度を活用していく。 計画的に人材確保ができるよう各学校関係に求人活動を行う。	職員の意欲を醸し出す処遇と育成を発展的に継続し、限らない成長を促せるように努め、モチベーションが高まるよう配慮した。 人材確保については、各学校への訪問活動により有能な 5 名（正職員 3 名・パート 2 名）の新人を確保することができた
(3)	①職務の明確化	各自の職務を明確にし、事務会議等を通して情報の共有化に努める。	朝の打ち合わせを充実させ、情報の共有に努めた。
	②事務処理のデジタル化	膨大な事務書類を極力デジタル化し、それを皆で共有できるシステムを構築する。	今年度はその仕組み・方法等を検討し、次年度試行していく予定である。
(4)	①障がい者支援事業への参入	障がい者の就労継続支援等新規事業への参入にて収益率アップを図り今後の経営を安定させる。 初期段階として洗濯・清掃業務を行い、以後他事業への拡大を図る。	管理職養成の研修会を実施し、具体的な検討がなされ、次年度以降具現化していく。 障がい者就労支援においては、今年度試行として養護学校生を 1 名受け入れ、現場実習を 2 回実施し、その結果、厨房パート職員として採用に繋がった。

5. ケアハウス「えがりて」

内外部の地域包括支援センターや広域医療機関、居宅介護支援センター等のご協力を仰ぎ、平成 28 年度末現在、【定員 30 名に対し、入居者が 25 名】稼働率 81.7%でした。次年度に向けて、更なる広報活動に力を入れ、残り 5 床の確保に全力を注いでまいりたいと考えます。

言うまでもなく、ケアハウスは、身体機能の低下等により自立した日常生活を営むことに不安があり、ご家族の援助を受けることが困難な方を支援する施設であります。

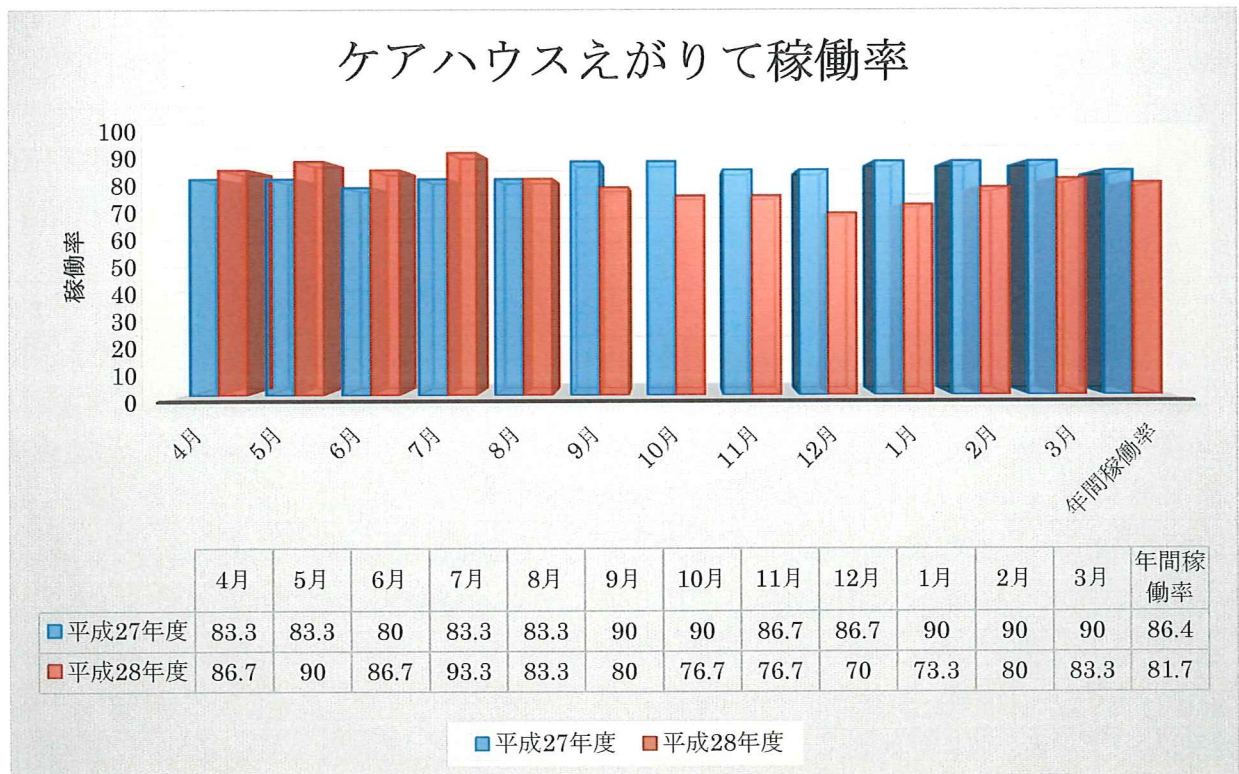
入居者様の居宅であることを十分認識し、笑顔が絶えないケアハウスえがりてにしていくために、入居者の皆さんの要望に耳を傾け、満足度の高いサービスの提供を行うことを基本として運営してまいりました。

そして、運営の目標として、ケアハウスが居宅サービスであることを踏まえ、入居者様の特性に配慮した住みよい環境を提供してまいりました。

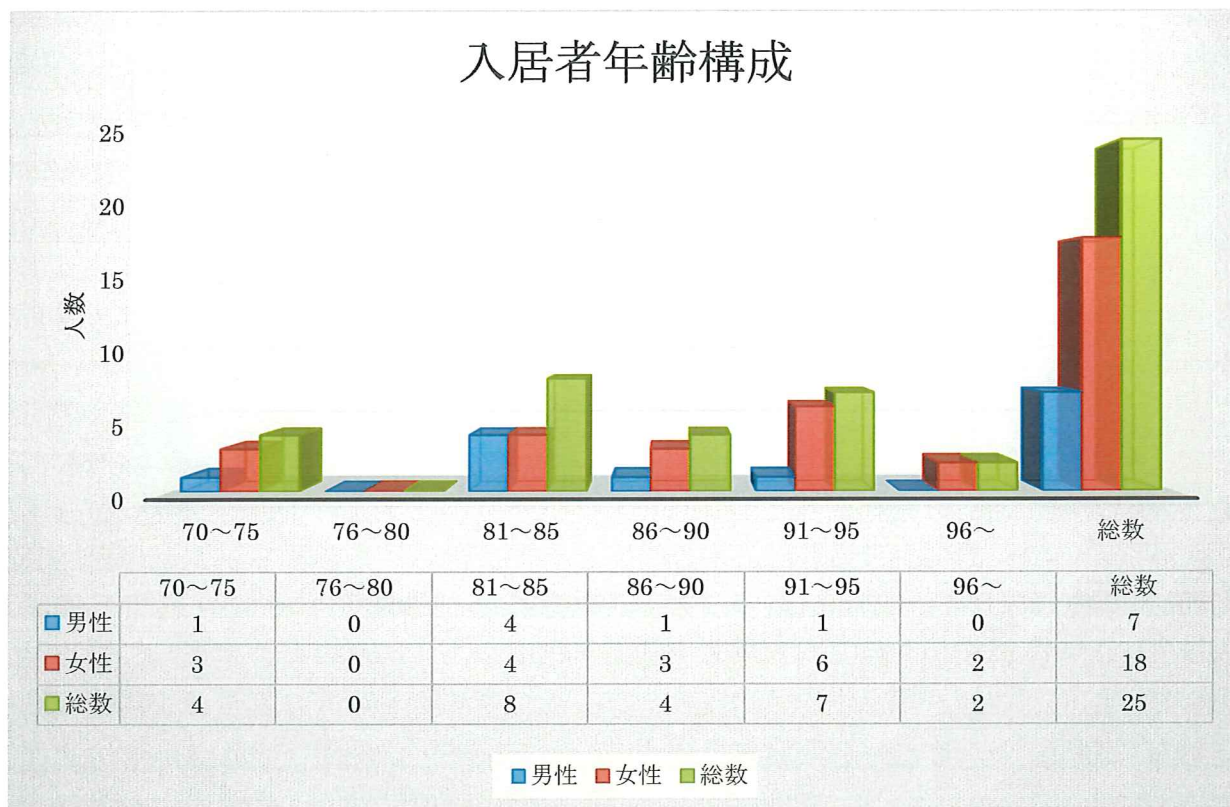
今後とも、入居者様の自主性を尊重することに主眼をおき、入居されている皆様が、明るく心豊かな日常生活を送っていただけるようサポートしてまいります。

平成 28 年度稼働率 81.7%

平成 27 年度稼働率 86.4%



① 男女別入居者年齢構成（平成 29 年 3 月 31 日現在）



② 平均年齢、最高・最低年齢

	入居者数	平均年齢	最高年齢	最低年齢
男性	7	84.3 歳	95 歳	75 歳
女性	18	86.8 歳	97 歳	70 歳
総数	25	86.1 歳		

【研修会報告】

① 外部研修

月	日	研 修 名	参加人員
4	21	神奈川県介護支援専門員実務研修会	1
		新任福祉施設等職員合同研修会（於、横浜市開港記念会館）	1
5	19	神奈川県介護支援専門員実務研修会	1
	31	栄養療法を支えるための多職種連携を考える	
6	2	第 15 回かながわ高齢者福祉研究大会	11
		神奈川県介護支援専門員実務研修会（於、神奈川県民ホール）	1
	8	三好春樹 新しい認知症ケア（於、プロミティ厚木）	6
	17	精神疾患の理解とその対応（主催：荻野地域包括支援センター）	7
	24	ニチワ医療福祉ソリューションセミナー（於、ニチワ電気東京支店）	1
	29	PEACH 厚木栄養講座（於、PEACH 厚木）	1
7	5	神奈川県相談支援従事者初任者研修（於、サンピアンかわさき）	1
	6	神奈川県相談支援従事者初任者研修（於、サンピアンかわさき）	1
	7	第 1 回多職種連携研修（愛甲地区医療介護連携会議）	3
	21	認知症キャラバンメイト養成研修会	1
	28	神奈川県相談支援従事者初任者研修（於、神奈川県立公文書館）	1
	29	こころの病の基礎知識研修会（主催：荻野地域包括支援センター）	1
		神奈川県相談支援従事者初任者研修（於、神奈川県立公文書館）	1
8	12	「デイサービス南さいわい」見学会（於、社会福祉法人 三條会）	1
	19	地域包括支援センター職員等養成研修〈初任者〉（於、帆船日本丸訓練センター）	1
	24	地域包括支援センター職員等養成研修〈初任者〉（於、帆船日本丸訓練センター）	1
	25	チームビルディング研修（於、神奈川県社会福祉会館）	1
	26	チームビルディング研修（於、神奈川県社会福祉会館）	1
		中堅職員キャリアパス対応生涯研修（於、神奈川県社会福祉会館）	1
	29	神奈川県相談支援従事者初任者研修（於、平塚商工会議所）	1
	30	神奈川県相談支援従事者初任者研修（於、平塚商工会議所）	1
	31	神奈川県相談支援従事者初任者研修（於、平塚商工会議所）	1
		主任介護支援専門員研修（県立保健福祉大学）	1
9	2	中堅職員キャリアパス対応生涯研修（於、神奈川県社会福祉会館）	1
	5	熊本地震の初動支援（主催：愛甲地区高齢者福祉施設連絡協議会）	13
	8	神奈川県喀痰吸引研修	1
	13	「視覚障害のある方への支援」研修（於、神奈川県リハビリテーション病院）	1
	15	神奈川県喀痰吸引研修	1
	16	コミュニケーション研修（主催：厚木市社会福祉協議会）	2

	20	第 1 回神奈川県認知症基礎研修	1
	21	介護支援専門員専門研修課程Ⅰ研修（於、神奈川県社会福祉会館）	1
	22	神奈川県喀痰吸引研修	1
	23	神奈川県喀痰吸引研修	1
	28	接遇リーダー研修	2
	29	介護支援専門員専門研修課程Ⅰ研修（於、神奈川県社会福祉会館）	1
10		神奈川県喀痰吸引研修	1
	3	神奈川県介護支援専門員実務従事者フォローアップ研修	1
	4	神奈川県介護支援専門員実務従事者フォローアップ研修	1
	6	虐待のない笑顔いっぱいの社会をつくろう（主催：厚木市社会福祉協議会）	2
	8	介護支援専門員専門研修課程Ⅰ研修（於、神奈川県社会福祉会館）	1
	9	神奈川県喀痰吸引研修	1
	12	接遇リーダー研修	2
		神奈川県介護支援専門員実務従事者フォローアップ研修	1
		介護支援専門員専門研修課程Ⅰ研修（於、神奈川県社会福祉会館）	1
	14	神奈川県喀痰吸引研修	1
		特別養護老人ホームの看取りと在宅での看取り（主催：荻野地域包括支援センター）	8
	19	介護支援専門員専門研修課程Ⅰ研修（於、神奈川県社会福祉会館）	1
	20	介護支援専門員専門研修課程Ⅰ研修（於、神奈川県社会福祉会館）	1
	24	全国地域包括・在宅介護支援センター研修大会（於、新横浜プリンスホテル）	2
11	25	全国地域包括・在宅介護支援センター研修大会（於、新横浜プリンスホテル）	2
	27	神奈川県喀痰吸引研修	1
	31	神奈川県介護支援専門員実務従事者フォローアップ研修	1
	1	介護支援専門員専門研修課程Ⅰ研修（於、神奈川県社会福祉会館）	1
	2	介護支援専門員専門研修課程Ⅰ研修（於、神奈川県社会福祉会館）	1
	8	非正規職員研修（於、かながわ福祉人材研修センター）	1
	10	「軽費ケアハウスの生活相談員に期待される役割」研修（於、神奈川県社会福祉会館）	1
	14	業務改善等研修会（於、神奈川県福祉会館）	2
	15	ICT を活用した多職種連携による在宅医療（於、厚木市総合福祉センター）	2
		介護支援専門員専門研修課程Ⅰ研修（於、神奈川県社会福祉会館）	1
	22	神奈川県介護支援専門員更新研修	2
12	28	業務改善等研修会（於、神奈川県福祉会館）	2
	29	コーチング研修（於、神奈川県社会福祉会館）	1
	30	コーチング研修（於、神奈川県社会福祉会館）	1
	2	「聞こえていますか家族の声」（主催：厚愛地区福祉連絡会）	24
	7	介護支援専門員専門研修課程Ⅰ研修（於、神奈川県社会福祉会館）	1
	10	主任介護支援専門員研修（県立保健福祉大学）	1

		神奈川県介護支援専門員更新研修	2
	12	法人後見担当者養成研修（海老名総合福祉会館）	1
	14	神奈川県介護支援専門員更新研修	2
	15	介護支援専門員専門研修課程Ⅰ研修（於、神奈川県社会福祉会館）	1
		神奈川県介護支援専門員更新研修	2
	20	介護支援専門員専門研修課程Ⅰ研修（於、神奈川県社会福祉会館）	1
		神奈川県介護支援専門員更新研修	2
	21	第 2 回軽費・ケアハウス部会（於、神奈川県社会福祉会館）	1
1	22	介護支援専門員専門研修課程Ⅰ研修（於、神奈川県社会福祉会館）	1
		神奈川県介護支援専門員更新研修	2
	10	介護支援専門員専門研修課程Ⅰ研修（於、神奈川県社会福祉会館）	1
	14	介護支援専門員専門研修課程Ⅰ研修（於、神奈川県社会福祉会館）	1
	17	介護支援専門員専門研修課程Ⅰ研修（於、神奈川県社会福祉会館）	1
	19	介護支援専門員専門研修課程Ⅰ研修（於、神奈川県社会福祉会館）	1
	20	介護支援専門員専門研修課程Ⅰ研修（於、神奈川県社会福祉会館）	1
	24	介護支援専門員専門研修課程Ⅰ研修（於、神奈川県社会福祉会館）	1
	26	ストレスチェックと人が辞めない組織づくり	1
	27	感染症予防（主催：厚木市社会福祉連絡会）	7
2	28	介護ロボットってなあに？	3
	30	介護支援専門員専門研修課程Ⅰ研修（於、神奈川県社会福祉会館）	1
	7	介護新専門員研修専門研修課程Ⅰ（於、神奈川県総合薬事保健センター）	1
		介護支援専門員専門研修課程Ⅰ研修（於、神奈川県社会福祉会館）	1
	8	介護技術研修（於、ウィリング横浜）	1
		事務研修会（於、神奈川県福利協会）	1
	17	成年後見制度（任意後見含む）と実際（主催：荻野地域包括支援センター）	8
	20	介護支援専門員専門研修課程Ⅰ研修（於、神奈川県社会福祉会館）	1
	21	介護支援専門員専門研修課程Ⅰ研修（於、神奈川県社会福祉会館）	1
	22	介護技術研修（於、ウィリング横浜）	1
3	24	「鶴瑛のふまじめ介護」講談	10
	27	第 2 回多職種連携研修会（主催：厚愛地区医療介護連携会議）	4
	1	荻野地区地域福祉推進委員会研修視察（東京都八王子市児童養護施設）	1
	2	プレ・リーダー研修（於、神奈川県社会福祉会館）	1
	13	かながわ高齢協・地域包括・在宅介護支援センター部会研修（於、神奈川県工科大学）	4
	16	認知症地域支援推進員研修（於、波止場会館）	1

② 施設内研修

月	日	研 修 名	参加人員
6	8	「認知症サポーターになろう!!」 講師：畑 武子氏（荻野地域包括支援センター管理者）	71
11	22	アンガーマネジメント① 講師：佐藤 恵子氏（アサーティブコミュニケーション）	77
2	20	アンガーマネジメント② 講師：佐藤 恵子氏（アサーティブコミュニケーション）	66

③ 管理職研修

月	日	研 修 名	参加人員
4	15	① 人事給与制度運用について ・新人事制度における評価制度構築準備 ・事業部門制における人事制度の運用について ・その他、当該制度運用にかかわる手続きの調整について ② 組織改革推進について ・課題解決型訓練による新体制下での経営戦略構築と推進並びに組織構築 ・管理者養成	12
5	13		12
6	10		12
7	8		12
8	26		12
9	9		12
10	14		12
11	25		12
12	9		12
1	13		12
2	17		12
3	10		10

《X 七》

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There is no text or other markings on the paper.



社会福祉法人 敬和会

平成28年度

事業報告書



社会福祉法人 敬和会

け い わ 保 育 園

け い わ 星 の 子 保 育 園

目 次

1. けいわ保育園	1
(基本理念)	1
(事業総括)	1
1. 新制度2年目を終えて	1
2. 保育士人材確保・人材育成	1
3. 保育士の質の向上	2
4. 保護者支援	2
5. 厨房機器の入替	3
(基本方針)	4
具体的取組内容及び達成目標	4
行事の実施	6
2. けいわ星の子保育園	7
(基本理念)	7
(事業総括)	7
28年度の保育状況	7
1. 人材育成	8
2. 保育の質の向上	8
3. 保護者支援	8
4. 地域支援	9
5. 防災計画の見直し	9
(基本方針)	10
具体的取組内容及び達成目標	10
行事の実施	12
【研修について】	13
園外研修	13
園内研修	13

1. けいわ保育園

(基本理念)

1. けいわ保育園は、子ども一人ひとりの個性を受け入れ、大切に育てます
2. けいわ保育園は、豊かな保育環境を用意し、遊びのなかで子どもの成長・発達を育みます
3. けいわ保育園は、地域社会との交流を通じて「和」を学び、生きることの「意欲」・「思いやり」を育てます
4. けいわ保育園は、子育て支援・育児支援を行います。

(事業総括)

1. 新制度2年目を終えて

平成28年度は、年間1,227名(113%)の延べ入園数のうち、保育標準時間利用者が96%、保育短時間利用者は4%だった。

新制度を機に、朝7時から18時までを標準保育時間に設定したが、18時01分からの延長保育料徴収は、1年間の周知期間を経て、平成28年度からの実施とした。

結果、費用徴収が始まった平成28年度は、18時01分～18時30分の延長保育利用者は、18時01分から18時30分までの月極め利用者が、月平均16名、19時までの月極め利用者は月平均3名、単回利用者を含めると、特に人数の多い18時01分から18時30分は月平均20名ほどになった。

延長保育時間の変更に伴って、次の2点が見えてきた。

- ・遅番の保育士が入る時間帯を延長保育利用者数によって調整できる。

延長保育の申請によって計画的に保育士を配置できる。

利用者が多い時間帯までの保育士配置を厚くすることができる。

- ・延長利用者を夕方にとめることにより、延長保育利用者数が以前に比べて増加した。そのため補助金等の収入が増加した。

2. 保育士人材確保・人材育成

国は待機児童ゼロを掲げて、認可保育所の数を増やしてきているが、保育士の数が不足し、途中退職や妊娠・出産に伴う休職などの補充だけでなく、新年度の確保も難しくなっている。

3月、初めての試みとして、厚木市民間保育会主催の保育士合同就職説

明会があり参加をした。ブースに7名の見学者があったが、採用には繋がらなかった。しかし、園のアピール方法や、どんな条件だったら保育士が来るか参考になった。

今、様々な就労形態を希望する保育士も多い。次年度に向けて活かしていけたらと考える。

人材育成では、事故防止対策への試みとして、ヒヤリハットの活用や事故が起こった際に、時系列的に保育士の動きを振り返り、クラス全体がどう動けば防げたか、クラス会議や保育会議を通して話し合いを行い、全体の周知事項に繋げるようにした。

また、中堅保育士育成として、乳幼児リーダー会議を行い、問題点や方向性を話し合い、全体への周知を行なった。

3. 保育の質の向上

平成30年度に向けて保育所保育指針の改正が行われようとしている。その中で、子どもたちの非認知能力を育てることが言及されている。

認知能力は記憶力や理解力と言われるのに対し、非認知能力は、様々な具体的経験を子ども自身が主体的に関ることから育つ「自己統制能力」や「問題解決能力」と言われている。

この能力を育てる活動の一つに、他児や自分より年齢の低い子どものお世話をするケア行動がある。

当園は年齢別保育が主であるが、縦割り保育も積極的に導入してきた。

「ステキな三人組」と称して、5歳児までが一緒に行動する機会を保育や戸外活動で行っている。

平成28年度は、初めての試みとして「ステキな三人組」の小グループを基礎として、1日保育を行った。

異年齢クラスでは、年長児が年少児を遊びに誘ったり、食事の時などお世話をする姿が見られ、子ども自身も楽しかったと言っていた。

次年度も回数を増やして、行っていきたい。

4. 保護者支援

平成28年度は、近所から尋常でない泣き声がすると通報を受けた1歳児在園の男児のケース会議が6月に行われた。このケースは7月に市が家庭訪問をしたのち、問題がないということで終息したが、市が家庭訪問をした際に、大人中心の生活で、大人からの子どもへの働きかけは積極的に行っていないように見えたと言われたと報告される。

このケースを通して、保育士間で子どもの育ちをどう伝えるか、園では

どんな保育活動をこういった目的で行っているかを積極的に伝えていこうと話し合いを重ねた。

保育活動の様子を写真等に撮り、張り出したり、子どもの様子を具体的に伝えるため活動は行っていたが、加えて新たにホームページをリニューアルし、職員も随時内容を更新できるようにした。

写真販売回数もクラスごとにカメラを購入したので、増やしていく予定である。

引き続き、次年度でも様々な保護者へ、子どもの育ち、成長の楽しみを伝えていきたいと思う。

5. 厨房機器の入替

厨房機器の老朽化によるガスレンジやスチームコンベクションの入替を行った。

(基本方針)

- (1) 人材育成 研修体制の構築
- (2) 保育の向上
- (3) 保護者支援
- (4) 地域支援
- (5) 非常時の危機管理の見直し

具体的取組内容及び達成目標

具体的取組内容		達成目標	目標達成状況
(1)	情報誌の編集	子育て支援事業の一環として情報誌を編集する。	編集後、希望者に配布
	マニュアルの点検と共通理解	非常時の役割分担の確認と危機管理に対する共通理解を深める。	避難訓練後の話し合いにより、深められた。
(2)	連続性のある保育	0歳児～6歳児までの発達を踏まえた、連続性のある教育・保育の動きかけを深める。特に以上児の個別の保育活動を保育課程と整合性を図りながら、遊びを中心とした連続性のあるものとする。 ・花育や遊びの内容の充実を目指す。 ・健康管理を徹底する。	0歳～2歳まで、這う、走る、飛ぶ等の粗大運動を組み合わせながら、しっかりとした運動ができるようにする。 3歳～5歳までは、共通テーマで年齢ごとに遊びを設定した。 幼児運動指針に基づき、走る、飛ぶ等の動きを遊びの中に取り入れ行った。
	苦情解決	苦情解決の事例を使った研修会	クラスリーダー、乳幼児リーダーの研修を行った。
	環境設定・事例検討の研修会	乳児・幼児クラス共通のテーマを設定し、研修を実施。 平成28年は、乳児、幼児クラス共通の運動遊びを3か月ごとに設定し、行った。	アレルギー対応食の誤食の事例を中心に誤食を防ぐフロムチャートを確認。厨房栄養士とともに話し合いを持つ
	中堅保育者のリーダー育成		乳幼児リーダー会議は、年4回行った。 保育活動の評価、人材育成を話し合った。
	厚木市民間保育会	他園との情報共有と交流	

	主任保育士会への参加 けいわ保育園・けいわ星の子保育園との職員交流	を深め、主任保育士のリーダー力を育成する。 職員交流を通じて、保育の質の向上を図る	保育士部会で、キャリア毎に研修会を行うこととなり、平成28年度は加配保育士研修を行った。 花育、スポーツチャンバラ等を通して職員間の交流を行った。
(3)	信頼関係の構築	・保護者への情報の提供 ・子どもの作品展示 ・写真による成長の記録を保護者向けに展示	写真や作品展示による成長の記録を公開した。
	行政機関との連携	特に「気になる子ども」への対応を学校・行政機関と連絡・相談を行う。	虐待の恐れのある児童の要保護対策協議会との連携による会議を2回開催
(4)	子育て支援事業	・子育て支援事業を通して、地域交流、家庭交流を行う。 - 年2回から年3回に増やす ・情報誌の提供	わくわく会への招待。離乳食講座の開催を行った。離乳食講座は、スーパーバイザーの都合により園の栄養士が行ったが、評判が良かった。
	中高生との交流事業	職業体験の受け入れ	厚木市内の高校生の受け入れを行った。
(5)	保護者への連絡体制	メール一斉配信システム一年に連絡も兼ねて3～4回実施。	
	危機管理マニュアルの再検討	マニュアルの見直し	避難訓練後に話し合いをもとにマニュアルの見直し、備蓄品の検討を行った。平成28年度は、施設機能強化費で3歳児～5歳児のヘルメットを購入した。

行事の実施

時期	内 容	備考
4月	進級・新入式・クラス懇談会	実施
5月	内科検診・ぎょうちゅう検査	実施
6月	わくわく会 お店屋さんごっこ・歯科検診・5歳児プラネタリウム	実施
7月	七夕会・5歳児お泊り保育・プール開き・人形劇鑑賞会	実施
8月		
9月	引き渡し訓練・敬老の日のつどい・乳児遠足	実施
10月	運動会（0, 1歳児はなし） サツマイモ掘り	実施
11月	5歳児演劇鑑賞会・内科検診・消防署見学	実施
12月	お餅つき・クリスマス会	実施
1月	クラス懇談会	実施
2月	節分会・生活発表会	実施
3月	5歳児お別れ遠足・ひな祭り会・お別れ会・進級説明会・卒園式	実施

☆身体測定（身長、頭回り、体重）は毎月測定

☆誕生会：乳児・幼児とも毎月行うが、乳児はクラス内で行う。

☆保護者参観・保護者参加：参観は随時対応 日課により保育参加あり

☆調理保育：保育日課に取り込む（たまねぎむき、午後のおやつ作り）

全体的な調理保育は年に2回～3回

☆戸外保育：気候のよい時期（5・6・9・10・11月）

☆花育：年間4回程度 花の生育や色、匂いを楽しむ

☆その他：中高生交流事業 職業体験受入れ

☆地域交流事業：6月わくわく会（人形劇）に地域の子育て家庭を招待

離乳食講座 らくらくクッキング

育児相談事業

子育て情報誌発刊

☆職員研修・職員会議：年間12回（食育研修1回・救急法講習会1回含む）

園外研修…宿泊研修（年間2～3回）

経験・配置に応じた研修受講

2. けいわ星の子保育園

(基本理念)

1. 家庭的な温かい環境のもとで、一人ひとりをしっかり受け止め、情緒の安定した生活ができるように大切に育てます。
2. 豊かな保育環境を提供し、夜間保育園ならではの多様な体験を積む中で子どもの成長を育みます。
3. 異年齢保育、世代間交流、地域交流等の関わりを通じ、優しい心と生きる力を育みます。
4. 地域の子育て支援、育児支援を行います。

(事業総括)

星の子保育園は、30名定員の少ない人数ですが、障害とは認定はされていませんが、「気になる子」が増えているようで、保育の難しさから厚木市の療育施設に巡回指導をお願いしました。その結果、子供たちの関わり方や保護者へのアプローチも少しずつ変わってくることが出来ました。

この「気になる子」の対応は、難しい面もありますが、試行錯誤をすることで専門的な実践力をつけ、保育士の力量アップにつながりました。

又、保育士不足についての政策は、いろいろ出てきましたが、高校生や大学生のボランティアを受け入れていく中でから、29年度採用につながったことは、とても嬉しく思います。

市内でたった1か所の認可夜間保育園として、昼の保育園では受け入れ困難な家庭のお子さんを預かるよう努力し、子供たちの最良の幸せのため今出来ることの精一杯の保育をこれからも提供していきたいと考えます。

28年度の保育状況（充足率108%）

	定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
0歳児	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36
1歳児	4	6	6	6	7	7	7	7	7	7	7	7	7	81
2歳児	5	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72
3歳児	6	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	60
4歳児	6	6	6	6	7	7	7	7	7	7	7	7	7	81
5歳児	6	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	60
計	30	31	31	31	33	33	33	33	33	33	33	33	33	390

1. 人材育成

○ 新人職員の研修と指導

28年度の新入職員はACソフトボールの選手をしながら、平日は保育士として働き頑張っています。専門職としての力量も身に着け2年目を迎えました。

○ 保育士としての専門性の向上

イ. 子どもを見る目を養う・・・物言わぬ子どものしぐさから何を読み取るか、気になる行動は何を背景として出てきているのかや、子どもを取り巻く環境要因を明らかにすることで対応も違ってくることが園内研修や職員会議等で確認・対応してきました。

ロ. 保育の記録の振り返り・・・日々の日誌の記録や、エピソード記録はどうしたら拾えるのか、意図して行った保育は、子ども達の発達や興味関心と合致したかを振り返ることで、次からの保育を考える手立てになることを理解していくことで少しずつ向上していきました。

ハ. 先輩保育士の指導・・・50代の保育士と20代の若手という構成は、相談などしやすい環境なのか、法人全体で行ったストレスチェックは星の子はストレス度が低いという結果でした。

2. 保育の質の向上

イ. 「気になる子」の対応

個人面談を保護者で行うことで、3名のお子さんを厚木市の療育施設に紹介する事ができました。巡回相談での作業療法士や心理士の専門的指導を受けることで保育しているだけでは気づけなかったことや対応の仕方など適切なアドバイスをいただきました。

職員が共通理解のもとでの保育できたことは大変良かったと思います。

3. 保護者支援

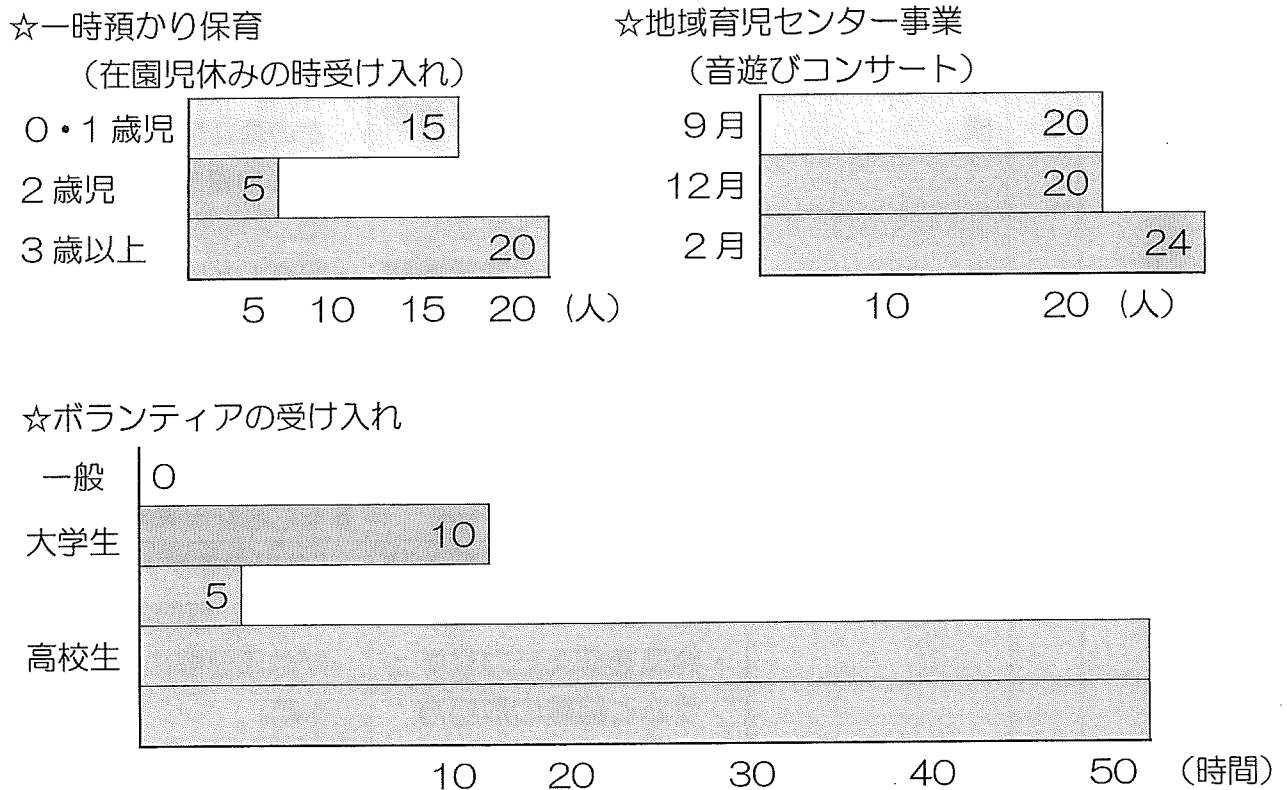
家庭環境では、母子家庭が多く、また、母親の病気で看病と仕事と育児に頑張っている家庭に対しての、日々の声掛けや、子ども達が保育園で楽しく過ごせるようにしてきました。時に深刻な相談をうけることもありますが、それだけ信頼してくださっていることを感じて励みにもなりました。

保育士の仕事は、記録することが多いですが、それでも子どもたちの成

長を伝えたいという熱意でしょうか、毎月欠かさず、クラス便りを出してきました。

4. 地域支援

開園以来実施している地域育児センター事業は年3～4回の実施で28年度末で46回を数えますが、毎回定員を超える申し込みがあります。



5. 防災計画の見直し

避難訓練計画に基づき、火事や地震の災害については定期的に訓練してきました。各地で起こっている災害が、私たちの住む町で起こらない保証はないとするなら、職員の心構えとしての準備をするために必要なことを見直しをしました。

新たに付け加えたことは、

- 大災害時における職員の動員体制
- 大災害が発生した際の基本的な対応についての文章化
- 保育園の非常持ち出し用重要書類についての把握

(基本方針)

- (1) 人材育成
- (2) 保育の質の向上
- (3) 保護者支援
- (4) 地域支援と交流

具体的取組内容及び達成目標

重点取組事項		達成目標	目標達成状況
1	保育士の人材育成	・新入職員の研修と指導 ・保育実践を基にした研修 ・自分をしり、不足を補う努力 ・職員間の親睦と支えあい	・新人保育士は、ＡＣソフトボールとの両立をしながら、専門職としての力量も確実に身に着けました。 ・保育士としての専門性は、 ①子どもを見る目を養うこと ②先輩保育士の親身の指導を受ける これらを丁寧にする事で達成することが出来ました
2	保育の質の向上	・気になる子の理解と発達支援 ・発達を抑えたカリキュラムと記録の取り方 ・保育士間の連携 ・保育業務支援導入検討	・「気になる子」を市の療育施設につなぎ、専門的指導を受け、職員が共通理解のもとで保育できました。 ・発達をきちんと押さえて、保育のふりかえりをする事やエピソード記録の取り方も身についてきました。 ・長時間の保育をつないでいくためには、保育士間の連携はとても大事であり、連絡ノートを活用し1日の様子をもれなく伝えていきました。 ・保育業務システム導入を検討しましたが、夜間保育園に対応したものがなかったので導入しませんでした。

3	保護者支援	・子育ての悩み共有し、子どもの育ちをともに喜ぶ (入園・進級1ヶ月後のアンケート) ・保育園での生活を写真や作品等で伝え理解を深める ・子育て困難家庭の援助	・母子家庭が増えたことや、母親の病気で看病と仕事と育児に頑張っている家庭に対しての日々の声掛けや、子ども達が保育園で楽しく過ごせるようにしてきました。 ・入園・進級1ヶ月後のアンケートを実施することで、保護者が感じている疑問にいち早く対応することで快適な保育園生活ができるようにしました ・保育士は子ども達の様子を出来るだけ詳しく伝える努力をし、作品や言葉の収集、作品を介して「生活展」を1週間開催し、たくさんの方に見て戴きました。
4	地域支援と交流	・地域子育て支援事業を通じての子育て相談や交流 ・一時預かり保育 ・職場体験の中高生の受け入れ ・ボランティアの受け入れ ・お年寄りとの交流 ・保育士を目指す学生への支援	・要望の強い一時預かりは、未満児を多く受け入れたこともあり、全部に應えることはできませんでしたが、努力しました。 ・中高生や学生のボランティア希望者を受け入れ、その中から保育士を目指す若者たちが出てきています。 ・えまーぶるの利用者と日常交流や夏のスイカ割をして交流しました

行事の実施

4月	入園・進級式 0・1歳児懇談会 職員研修会	実施
5月	内科検診 子育て支援事業 家族交流会	実施
6月	苗植え遠足 3・4歳懇談会 歯科検診 2歳児保育参加	実施
7月	七夕 5歳児懇談会 お泊り保育 同窓会	実施
8月	スイカ割 プール遊び	実施
9月	引き渡し訓練 戸外給食 お月見会	実施
10月	尿検査 運動会 イモ堀 プラネタリウム	実施
11月	内科検診 演劇鑑賞会 焼き芋 防災センター見学	防災センター見学は体調不良児が多く実施できず
12月	クリスマス会 子育て支援事業 お餅つき 大掃除	実施
1月	個人面談 魚さばき 焼き餅	実施
2月	節分会 生活展 子育て支援事業	実施
3月	ひな祭り お別れ遠足 進級説明会 入園説明会 卒園式	実施

※ 身体測定 ・ 誕生会 ・ 避難訓練は毎月実施

【研修について】

園外研修

1	新入職員研修会	社会人としてのビジネスルール・マナー
2	関東ブロック大会	子どものより良い育ちに向けた関係機関とのネットワーク
3	障害児保育研修	遊びが育てる可能性～作業療法士の視点から～ 自閉症のパニックをゼロにする12の対応
4	乳幼児研修	日常保育から運動会へ 保育の考え方
5	アレルギー研修	食物アレルギーの基礎知識と緊急時のエピペンの使用について
6	厚木市民間保育会	2歳児保育担当者交流 加配保育担当者交流 保育者のための保護者とのスムーズな付き合い方
7	厚木市保育会研修	厚木市の療育「ことばを育てる」
8	神奈川保育会	保育園利用者相談に寄せられた苦情について
9	感染症予防研修	社会福祉施設における食中毒予防
10	夜間保育園連盟	新制度と10年後の夜間保育園 保育の質を向上する手立てについて 研究と保育実践をつなぐ 調理員は、保育とどうかかわるか
11	公開保育	認定こども園緑ヶ丘幼稚園 公開保育

園内研修

1	子どもの様子	新年度の子どもの状況把握と対応について
2	救急救命講習会	厚木消防署応急手当指導員の指導 怪我の応急手当 AEDの使い方
3	保護者対応	保育園と家庭をつなぐコミュニケーション
4	専門機関との連携	子どものより良い育ちに向けた関係機関とのネットワーク
5	防災について	非常時の職員の動員体制 災害時の対応と確認
6	保育の記録	エピソード記録とは・視点の持ち方 保育を伝えるためにはどうしたらよいか

《× 七》

This image shows a single sheet of white paper with horizontal blue or grey ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.